



2019年度(令和元年度)

～JICA 教師海外研修～ (九州・沖縄)

(研修国:  ラオス人民民主共和国)



2019年度(令和元年度) ～JICA教師海外研修～(九州・沖縄)

【目次】

2019年度教師海外研修 研修概要

教師海外研修概要	2
JICA教師海外研修1年の流れ	3
研修メンバー	7
派遣国概要	8
派遣国現地訪問先	9
海外研修スケジュール	10
活動日誌	11
ラオスの様子	18
教師海外研修新聞掲載記事	21

2019年度教師海外研修 授業実践報告

浦添市立港川小学校 伊波史織 「教室でせかいたいけん!」	28
名護市立久辺小学校 大城英樹 「沖縄から世界へ～世界の人々とどのように関わり、私たちは何ができるだろう～」	34
宮古島市立平良中学校 座安可那子 「みんなの力が1つになったとき」	40
那覇市立鏡原中学校 武野麻衣子 「私とあなたの幸せな未来へ」	46
うるま市立あげな中学校 當銘直樹 「あなたの色をおしえて」	52
御船町立高木小学校 小畑千雅 「ラオスの人たちと、私たち～ラオスのことを知り、自分のことを見つめよう～」	59
大分市立大在西小学校 川野由加理 「世界を知ろう、体験しよう。そして、世界に参加しよう!」	64
熊本市立白山小学校 谷沙織 「水の大切さを知ろう」	69
宮崎県立延岡高等学校 津嶋大樹 「ラオスの学びを通して、グローバルな人材へ」	74
壱岐市立瀬戸小学校 中尾麻美 「“おなじ”も“ちがひ”も だいすき!」	79
大分市立吉野中学校 林正太郎 「世界の食料事情を知ろう」	85
福岡市立三宅小学校 原田恵里 「知りたいな!アジアの国」	91
鹿児島市立皇徳寺小学校 前濱めぐみ 「世界はバランスでできている」	96

教師海外研修概要

教師海外研修とは…

JICAの各国内拠点が所管する都道府県の教育委員会と協力し、国際理解・開発教育に意欲のある教職員等を対象に、開発途上国の状況や国際協力などの日本と関係する現場を実際に視察し授業案・教材を作成する機会を提供するものです。

1. 研修のねらい

教師海外研修には、主に2つのねらいがあります。

- ① 研修を踏まえた授業案・教材を作成・実践し、担当する児童・生徒の国際理解・国際感覚の醸成につなげる。
- ② 研修参加者が所属する都道府県全体の国際理解・開発教育を推進する中核人材になる。

2. 海外研修国：ラオス人民民主共和国（以下ラオスと表す）

○海外研修内容

JICAプロジェクト視察、現地青少年施設の訪問および交流、青年海外協力隊員の活動視察等

《参考情報》

- JICAラオス事務所サイト <https://www.jica.go.jp/laos/office/>
- 外務省ラオス人民民主共和国事情 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>
- ぼくら地球調査隊 <https://www.jica.go.jp/kids/pages/>

3. 研修の内容及日程

本研修は、①派遣前研修、②海外研修（ラオス）、③派遣後研修、④報告会の4つからなります。

①派遣前研修では、ワークショップ・教材の体験や海外研修後に実践する授業のイメージ作りや、海外研修で収集する情報等の整理、③では授業案・教材の作成やそれに対する意見交換を実施。

今年度はJICA沖縄とJICA九州合同での研修となり、参加教員は総勢13名となりました。

九州からの参加者は沖縄での派遣前研修（第1回目はWeb会議）と第1回目の派遣後研修、九州における報告会を実施予定（新型コロナウイルスの影響で今年度実施が延期となった）。沖縄からの参加者は、例年通りすべての研修への参加に加え、毎年11月に行われる「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019」にて研修成果として研修内容のパネル展示とワークショップを実施。また、沖縄では研修の一部を「国際理解・開発教育指導者養成講座」と合同で実施しています。

「本事業・本報告書作成等受託者：沖縄NGOセンター」

JICA 教師海外研修1年の流れ

日 程	内 容	沖縄参加者	九州参加者
6月15日 (土)	第1回派遣前研修 教師海外研修の概要、渡航前注意事項、参加者間の 役割分担、派遣国紹介、過年度参加者の体験談など	○	(Web会議)
6月29日 30日 (土・日)	第2回派遣前研修 準備や役割分担、帰国後の授業実践アイデアや 海外研修内容検討	○	○
7月20日 (土)	第3回派遣前研修 (※指導者養成講座初級編第1回目との合同) ワークショップ体験	○	×
7月23日 (火) 8月3日 (土)	海外研修 派遣国：ラオス人民民主共和国	○	○
8月7日 (水)	海外研修簡易報告書提出	○	×
8月17日 18日 (土・日)	第1回派遣後研修(17日は指導者養成講座初級編第2回目との合同) 海外研修報告、教材案の作成・発表・意見交換、 ワークショップ教材の体験など	○	○
8月19日 (月)	沖縄県教育庁報告会・教育長表敬	○	×
8月29日 (木)	海外研修簡易報告書提出	×	○
11月2日 3日 (土・日)	海外研修結果や実践進捗の発表、参加型ワークショップの実施 *JICA沖縄主催 おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019内	○	×
12月14日 (土)	第2回派遣後研修 (※指導者養成講座初級編第3回目との合同) 授業実践発表・意見交換	○	×
1月10日 (金)	授業実践・教材集の初案提出	データでの提出	
2月28日 (金)	授業実践・教材集の最終版提出	データでの提出	

研修の内容と日程

第1回 派遣前研修

- 日 時: 2019年6月15日(土) 13:00~16:00
- 対 象: 沖縄参加者・離島／九州参加者(Web会議にて)
- 内 容:

JICA事業について

1. 参加者自己紹介
2. 教師海外研修の全体概要説明
3. 青年海外協力隊ラオス派遣者より
ラオスの様子についてお話し
4. 参加にあたっての準備や注意事項の共有



第2回 派遣前研修

- 日 時: 2019年6月29日(土) 14:00~19:00／30日(日) 8:00~12:00
- 対 象: 沖縄参加者・九州参加者
- 内 容:

1 日目

1. アイスブレイク
2. 教師海外研修 過年度参加者からのお話し
3. ラオスの訪問場所や案の共有
4. 教材の作成方法について

2 日目

1. ラオス研修中における出し物について考える
(ミニ授業、ワークショップ、踊り等)
2. 事前準備に関する確認



第3回 派遣前研修(国際理解・開発教育指導者養成講座初級編第1回目)

- 日 時: 2019年7月20日(土) 10:00~16:00
- 対 象: 沖縄参加者
- 内 容:

1. アイスブレイク
2. ワークショップ体験①
「世界がもし100人の村だったら」
3. ワークショップ体験②
「地球の食卓」・「クロスロード」
4. ふりかえり・意見交換会



海外研修

- 派遣期間:2019年7月23日(火)～8月3日(土)
- 派遣国:ラオス人民民主共和国
- 対象:沖縄参加者・九州参加者
- 内容:JICAプロジェクト視察、
青年海外協力隊活動視察、現地青少年施設の訪問および交流会等



第1回 派遣後研修(国際理解・開発教育指導者養成講座初級編第2回目)

- 日時:2019年8月17日(土)10:00～16:00／8月18日(日)9:00～12:00
- 対象:沖縄参加者・九州参加者
- 内容:

1日目

1. アイスブレイク
2. 教師海外研修報告
3. 教材紹介
 - ①「もう一つのオキナワ」 ②VIVAウチナーンチュ ③いのちのバトン
4. 教材作成のポイント・素材さがし・授業案作成について
5. 作成教材の共有
6. ふりかえり・意見交換会

2日目

1. 教材作成のふりかえり・共有
2. 報告会・報告書に向けての調整



沖縄県教育庁における海外研修報告会・教育長表敬

- 日時:2019年8月19日(月)11:10～11:50
- 対象:沖縄参加者
- 内容:

1. 教師海外研修概要説明・帰国者紹介
2. 帰国報告
3. 質疑応答・コメント



おきなわ国際協力・交流フェスティバル2019

- 日 時:2019年11月2日(土)、11月3日(日)
- 場 所:JICA沖縄センター(おきなわ国際協力・交流フェスティバル内)
- 担 当:教師海外研修参加教員5名
- 対 象:沖縄参加者
- 内 容:

- ①海外研修結果や実践進捗の展示「コープチャイ!!2019」
- ②参加型ワークショップの実施「サバイディーラオス!2019」



第2回 派遣後研修(国際理解・開発教育指導者養成講座初級編第3回目)

- 日 時:2019年12月14日(土)10:00~16:00
- 対 象:沖縄参加者
- 内 容:

- 1. 授業実践報告
- 2. 沖縄における多文化共生のお話し
- 3. ワークショップ体験「日本代表チームを作ろう!」
- 4. ふりかえり・意見交換会





研修メンバー

上段左から

なか お 中尾	ま み 麻美	苓岐市立瀬戸小学校 1年担任
つ しま 津嶋	だい き 大樹	宮崎県立延岡高等学校 英語科
ざ やす 座安	か な こ 可那子	宮古島市立平良中学校 保健体育・美術科
たに 谷	さ おり 沙織	熊本市立白山小学校 特別支援学級担任
かわ の 川野	ゆ か り 由加理	大分市立大在西小学校 3年担任
はやし 林	しょう た ろう 正太郎	大分市立吉野中学校 英語科
とう め 當銘	な お き 直樹	うるま市立あげな中学校 美術科
おお しろ 大城	ひで き 英樹	名護市立久辺小学校 6年担任

下段左から

まえ はま 前濱	めぐみ	鹿児島市立皇徳寺小学校 6年担任
い は 伊波	し おり 史織	浦添市立港川小学校 養護教諭
たけ の 武野	ま い こ 麻衣子	那覇市立鏡原中学校 家庭科
お ばた 小畑	ち が 千雅	御船町立高木小学校 1年担任
はら だ 原田	え り 恵里	福岡市立三宅小学校 3年担任
たま しろ 玉城	な お み 直美	沖縄NGOセンター 同行



派遣国概要 ラオス人民民主共和国

- 【首都】 ビエンチャン
- 【人口】 約649万人(2015年、ラオス統計局) *在留邦人 863人(2017年10月)
- 【面積】 24万平方キロメートル(本州とほぼ同じ)
- 【地勢】 高地が国土の80%、農用地は全土の9%
国内最高峰はシェンクワン県のプーピア(ピア山) 2,820m
- 【気候】 熱帯モンスーン気候(雨季5～10月、乾季11～4月)
- 【言語】 ラオス語(ラオ語)
- 【民族】 ラオ族(全人口の約半数以上)を含む計50民族
- 【宗教】 仏教(国民の約75%)
- 【略史】 1353年ランサーン王国として統一。
1899年フランスのインドシナ連邦に編入される。
1949年、仏連合の枠内で独立。
1953年10月22日、仏・ラオス条約により完全独立。
1973年 2月「ラオスにおける平和の回復及び民族和解に関する協定」成立。
1975年12月、ラオス人民民主共和国成立。
- 【通貨】 キープ(Kip) 100キープ=約1.24円
- 【産業】 サービス業(GDP約42%)、農業(約17%)、工業(約29%)。(2016年ラオス統計局)
- 【教育制度】 就学前教育(保育所、幼稚園、準備学級)
初等教育(小学校) 5年(義務教育)
前期中等教育(中学校) 4年(義務教育)
後期中等教育(高校) 3年
高等教育(大学) 4年
9月入学



【国花】 プルメリア

出典：外務省 ラオス人民民主共和国
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/laos/>
 JICA <https://www.jica.go.jp/index.html>



派遣国 現地訪問先



ビエンチャン

- ◆JICAラオス事務所
- ◆ラオス日本センター (LJI)
- ◆ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクト
- ◆Chinaimo Water treatment Plant
- ◆ホアイホン職業訓練センター
- ◆アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP)
- ◆COPE Visitor Center
- ◆ビエンチャン市内視察
(凱旋門、タートルアン、タラートサオ)

ボーリカムサイ

- ◆ボーリカムサイ子ども文化センター
- ◆ビレッジステイ (バーンナー村)

カムムアン

- ◆ターケーウ市内観光
- ◆ISAPH

サーラワン

- 【パクセー】
- ◆チャンパサック教員養成校
- ◆ローカル市場
- ◆Village Focus International
- ◆市内観光 (ワットプー)

海外研修スケジュール

日 付	時間	内容・視察先
7月23日 (火)	午後	沖縄→福岡→ビエンチャンへ 最終日程打合わせ
7月24日 (水)	午前	JICAラオス事務所ブリーフィング
	午後	ラオス日本センター訪問 学生との交流
7月25日 (木)	午前	JICA事業視察:ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクトⅡ訪問
	午後	JICA事業視察:水道事業運営管理能力向上プロジェクト
7月26日 (金)	午前	ボーリカムサイ (パフサン) へ移動
	午後①	「ボーリカムサイ子ども文化センター」 JICA海外協力隊 中村隊員の活動視察・子供との交流
	午後②	バーンナー村へ移動(ホームステイ先) 村の子どもと交流、竹細工の手作り作業視察・体験、バシー体験
7月27日 (土)	終日	カムアン県ターケクへ移動 ターケク市内見学
7月28日 (日)	午前	ISAPH 訪問・現場視察
	午後	ビエンチャンへ移動
7月29日 (月)	午前	パクセーへ移動 「チャンパサック教員養成校」 JICA海外協力隊 岩井隊員の活動視察
	午後	教材収集など(ローカル市場見学)
7月30日 (火)	午前	Village Focus International視察(国際NGO、人身取引対策) 事業ブリーフィング・シェルター視察
	午後	ワットプー(市内観光)
7月31日 (水)	終日	ビエンチャンへ移動 ホアイホン職業訓練センター
8月1日 (木)	午前	【草の根技協】アジアの障害者活動を支援する会(ADDP) 障害者就労支援施設見学(クッキー工場)、 障害者スポーツ振興プロジェクト視察(ゴールボール・パワーリフティング)、卓球バレー体験
		COPE Visitor Center 見学
8月2日 (金)	午後	市内観光(タートルアン、凱旋門、タラートサオ)
	午前	報告会準備
8月2日 (金)	午後	報告会 空港へ移動、ビエンチャン発
8月3日 (土)	午前	福岡空港→沖縄到着

■ 初 日

7/23(火) ラオスへ出発

ついに来ました！海外研修スタート！沖縄組は6時に那覇空港。九州組は福岡に前日又は当日入りをし福岡空港で合流しました。研修員13名+直美隊長がそろい、いざラオスへ。飛行機に乗って3時間後ハノイ空港に到着。空港ではJICAラオスの職員の方々がお出迎えをしてくれました。空港ではさっそく日本とラオスの国旗が並んだ看板の前で集合写真！をカシャ！！チェックインをした後、ラオスに滞在中の豊さんなどが夕食の場所にきて顔を見にきてくださりみんなでラオスの食事を食べました。

【座安】



■ 2日目

7/24(水) JICAラオス事務所ブリーフィング

JICAラオス事務所へ行くと、米山所長をはじめ、たくさんの方々が出迎えて下さいました。まずは、ラオスにおけるJICAボランティアの概要説明です。農林水産や保健医療など、多岐にわたる事業でJICA隊員が現地の人々と協力しながら活動を進めていることを知りました。特に焦点を当てて説明してくださったのは、教育現場での活動についてです。教職員向けの現職派遣制度等を活用し、多くの教員がラオスの地で活躍している様子が印象的でした。

【小畑】



ラオス日本センター(LJI)

ラオス日本センターで日本語を学んでいる生徒たちとの交流を行いました。お互いに自己紹介等を行った後、小さなグループに分かれて交流をしました。ラオスの生徒さんたちは日本語がとても上手で、最初は驚きましたが、徐々に仲良くなることができました。生徒さんたちは日本の文化にとっても興味があり、将来日本を訪れたい気持ちがとても強く、それが日本語を学習する原動力になっているようでした。

【津嶋】

7/25木 ビエンチャンバス公社能力改善プロジェクト

首都ビエンチャンの移動中、どこか懐かしいデザインのバスが目に入りました。若草色に緑のライン。バス公社を見学して、このバスが京都市からビエンチャンに贈られたものと判りました。前面のプレートには“From Kyoto, Japan”と記されています。

JICAは発展途上国に対する支援の一環で、同公社のバス網の改善を支援しています。運転手の待遇を改善したり、路線を整理したり、時刻表を作ったりしながら順調に乗客数を増やしています。異国の地で展開されるエキサイティングなプロジェクトに驚きました。

【林】



水道事業運営管理能力向上プロジェクト「MaWaSU2」視察



生きる上で欠かせない「水」。ラオスでは、その水源となるメコン川の水を周辺諸国と分け合い生活を営んでいます。しかし、“安心・安全な水”を享受できるのはラオス全体の約25%の人々のみ。この現状に、このプロジェクトの重要性を強く実感しました。

数日後、訪れた村にてケガで皮膚が化膿した子どもを見つけました。日本だと、まず傷口を水できれいに洗うように伝えます。

ですが、水の安全性と衛生上の不安から躊躇しました。感染症の防止や公衆衛生の向上にも大きな影響を及ぼす水道事業は、まさに命を支えるプロジェクト。そんな壮大な事業に携わる日本人、藤瀬大気さん。『ラオスの人々とともに事業を創りあげることがこのプロジェクトのゴール』そう仰っていました。「水を大切に！」の「大切」さに、どれだけの人の思いや志が込められているのか深く考えさせられた1日となりました。

【伊波】

■ 4日目

7/26金 ボーリカムサイ子供文化センター(CCC)

ここでは、日本から準備した様々な取り組みを通して、子ども達と楽しく交流を行いました。前日までは、子ども達に受け入れてもらえるかとても不安でした。しかし、ダンスや折り紙、塗り絵を共に行い、子ども達の表情が自然に笑顔になってくれたことが嬉しかったです。今回の交流が上手くいったのは、日本から来た私達だけが心を開いたのではなく、CCCの子もたちも心を開いていたことです。つまり、「お互い様」という気持ちが大切なのだと考え、それは人と人とのコミュニケーションの基本ではないかとあらためて感じました。

【當銘】



バーンナー村

ここでの時間は人の温かみを感じ、本当の幸せとは何だろうと考えさせられる時間でした。バシーという歓迎の儀式では、村の人一人ひとりに丁寧ミサンガを腕に巻いてもらいました。言葉は通じないけれど、村の人々が温かく迎え入れてくれていることが伝わってきて、人の温かさとはこういうものなんだと感じました。現代の日本の生活と比べると、物が少なく、不便なことが多いとは思いましたが、村の人々の笑顔はキラキラ輝いており、幸せは物や便利さではないと感じました。

【原田】



■ 5日目

7/27土 ターケーク市場



ラオスの食料自給率は126%です。タイ、ベトナム、ミャンマーと並んで、アジアトップの食料自給率を誇っています。人口の80%以上が農業に従事し、市場にはたくさんの種類の野菜が、毎朝これでもかというほどに並びます。

一方で、私たち日本人にとって目を引くのは魚介類や肉類の売り方でした。年間平均気温25.6℃のラオスで、様々な部位のお肉が常温で並び、虫除けには空中を舞うビニール袋のみでした。しかし、意外と膾炙した匂いはありません。その秘密は、朝締めされた新鮮なお肉だけが市場に並ぶからというから驚きです！売れ残ったお肉はその日のうちに干物にしたり、自宅に持ち帰って冷凍して自分で消費したりします。ラオスの豊かな姿を感じることができました。

【谷】

■ 6日目

7/28日

International Support And Partnership for Health(ISAPH)

ラオスの公衆衛生について話を伺いました。こんなにも食材が豊かであるのに栄養失調を抱えている現状があり、ISAPHでは、リボリングファンド支援として、昆虫食に着目し、2020年の4月からJICAとプロジェクトを開始するそうです。昆虫食は、貧困食ではないということ、そして現地の人々の生活の文脈の中で支援を考え、活動されているISAPHの方の話から、働くということや人生観などを改めて考えるきっかけをいただきました。

【前濱】



■ 7日目

7/29日

チャンパサック教員養成校

新しくカリキュラムに組み込まれたという「エコヘルス教育」について、岩井隊員から話を伺うことができました。「エコヘルス教育」とは、環境教育と健康教育が融合されたもので、食育・性教育・安全教育等の授業や身体測定・手洗い・歯磨き等の生活習慣に関わるアクティビティによる指導を行っているそうです。必要な生活知識を習得することが自分たちの健康や安全を守ることにつながるので、こうした教育支援の重要性を感じました。

【中尾】



教材収集(ローカル市場)

パクセーへ移動してローカル市場視察を行いました。この市場は、食材を中心に露店で販売しているこれまでの市場と異なり、2階建ての建物でした。客層も観光客よりも地域の人が多くいて、台所製品や衣料品が販売されていました。また、エレベーターの設備や椅子やテーブルが用意された飲食スペースもあり、市場の近代化が進んでいるのだと考えさせられた視察でした。市場の比較から今後、ラオス がどのように変化するのか子ども達に考えさせてみたいです。

【大城】



当施設では、貧困の女性や子どもに向けた職業訓練を行っています。心のケアや言語指導で訓練の土台を作り、洋裁、美容、調理、農業の4種類から半年間訓練を受け、卒業後は進路、自立のフォローアップまで手厚い保障をするそうです。

センター長のブルアンさんは「施設の中でありのままにできるように」「どうしたら彼女たちが自立できるのかを常に考えている。」とおっしゃっており、抱えている問題や重みは違っても、日本の学校現場と通ずるものを感じました。

【川野】



市内観光(ワット・プー)

ラオスでは、至る所で美しい寺の数々を見ることが出来ます。ラオスで出会う仏像はどこかコミカルな表情をしていて、仏教の厳かな雰囲気を親しみやすいものにしています。

ワットは寺、プーは山という意味があり、その名の通りワット・プーは山の中腹に建てられています。ところどころ苔むしたり、欠けたりしつつも、今なおどっしりと地に根付いた古代遺跡群と山からの美しい眺めは、息が上がるほどの急な階段を上ったご褒美と言えそうです。また、細やかで規則的な装飾に、電気も機械もないはずの7世紀の人々が、どれほどの強い願いを込めて創ったものなのか、思いを馳せずにはいられませんでした。

【谷】



■ 9日目

7/31 水 ホアイホン職業訓練センター

ラオスの伝統工芸を支援する活動が行われていました。タマネギの皮やココナッツ、カイガラ虫など自然のもので染められた糸(生地)は、色とりどりで、とてもきれいでした。現地の方は、機織り機を使い、柄を入れながら器用に糸を紡いでいました。一つ一つ手作業で丁寧に作っている工程を見ると、ラオスの民族衣装であるシンが、より一層美しく見えます。日本で人気となっているファストファッションが与える環境問題についても考えさせられた場所になりました。

【中尾】



■ 10日目

8/1 木 アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)

ラオスは障がい者に対する物理的・心理的支援が未発達で、障がい者の自立や社会参加が遅れているという話を、プロジェクトコーディネーターの新井さんより伺いました。また、障がいの有無に関わらず誰でも参加できる「卓球バレー」も教えて頂きました。両足麻痺という障がいを抱えている重量挙げの選手に審判となっただき、実際にプレーし、ユニバーサルスポーツの楽しさを体感できました。学級や学年レクで取り入れて、心と体の垣根を越える体験を生徒とともにしたいと思いました。

【武野】



COPE Visitor Center見学

「ラオスは世界で最も爆弾を落とされた国」とも言えるほど、ベトナム戦争で恐ろしい数の爆弾が落とされました。その投下された爆弾が不発弾となって、今もまだラオスにはたくさん埋まっています。首都ビエンチャンの郊外にあるこの施設では、不発弾により命を落としたり、目や手足を失うなどの悲しい被害や、被害拡大防止の取り組みを学びました。写真のクラスター爆弾とその中の小爆弾の立体展示は、その当時逃れる場所がない程大量だったことを、肌で感じることができました。

【武野】



市内観光(タートルアン、凱旋門、タラートサオモール)

国章にも描かれているタートルアンはラオスのシンボルとされる、金と白の美しい寺院です。並んで、この凱旋門も、フランス領土だったラオスのシンボルの一つです。

また、首都であるビエンチャンで一番大きなショッピングモールであるタラートサオモールには、日本と同じように、地元の人々が家族で訪れる姿が多く見られました。しかし、トイレが有料だったり、レジの裏にハンモックや布団があったりするなど、よく見てみると、ラオスらしさを見つけることができますよ！

【谷】



■ 最終日

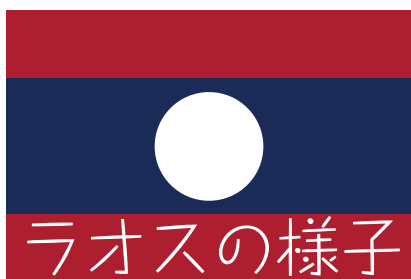
8/2金 報告会

本研修は、事前から「教育班」「生活班」「食文化班」と3つの班にわかれ研修の充実を図ってきました。特にラオスと沖縄やラオスと日本の似ているところ、違うところを、五感をフルに使い、沢山吸収してきました。報告会を通して、少しでも研修で学ぶ環境を頂いたことへの感謝の気持ちを伝えようと全員で資料作成に取り組みました。

凄く内容の濃い発表会になりました。また、ラオスを離れる時、研修期間中、サポートしてくれたヌイさんとの別れを惜しみ涙がとまりませんでした。一生忘れられない仲間との出会い、「第2の故郷は？」と尋ねられたら「ラオス」と自慢したくなるような出会い、沢山学んで成長させてもらった研修となりました。コープチャライライ。

【座安】





生活班 伊波史織、林正太郎、座安可那子、武野麻衣子、川野由加理、原田恵里

「バーンナー村にて」 「命の水」

ラオスのバーンナー村でのこと。村の子ども達は「夏休みよりも学校がいい!」と口を揃えます。1番好きな勉強は「ラオ語」。少数民族が多いラオスでは、公用語のラオ語が話せない人々も。この村でも、ラオ語ではない言語を話す場面がみられました。そんな中、ある女の子は英語が少しだけ話せます。村を訪れる外国の方から教わったそう。日常にこんな大きな学びの機会があるなんて!素直に羨ましい!いつでも、どこでも、誰にでも、世界と繋がるチャンスは転がっているんだなぁと実感した瞬間でした。



以前ラオスの小さな村を訪れたとき、そこには水道がなく井戸から水を汲んだり、雨水を大きな桶にためるなどして水を得ていました。現在のラオスでは、人口約650万人に対して水道を利用できる人は約162万人で普及率は25%とまだ低い水準です。蛇口から当たり前のように飲料水を得る日本人から見れば驚く数字と言えます。衛生管理面でも水は重要です。水道処理施設で示されたグラフから、水道の普及率が乳幼児の疾病率に反比例している様子が読み取れます。水は命に直結する大事な資源だと改めて感じました。



「托鉢の様子」

朝早くからオレンジの布を身に付け、10人程の集団で一列にきれいに列を並べ肩からかごのようなものをかけているお坊さんの集団。ラオスのほとんどの地域で見かけることができ、今では観光名物の一つになっています。しかし、これは現地の人々が昔から大事にしてきた生活習慣の1つ「托鉢(たくはつ)」です。現地の人は、朝からカオニャというお米を準備し、一人ずつ托鉢のかごに手を合わせたあとご飯を供えます。好奇心で毎日継続して托鉢を行いましたが、心の持ち方の変化に私自身が驚いた11日間となりました。



「食文化と水」

世界で2番目に米をたくさん食べる国、ラオス(ちなみに日本は50位)。ラオスの主食であるカオニャオはもち米で、もち米が主食の国は世界でも珍しいそう。ラオスの人たちはカオニャオを、指で直接摘み、軽く捏ねておかずと一緒に食べていました。

このカオニャオは、ラオスの特産品の一つである竹籠(ティップカオ)に入っています。朝、それぞれの家庭ではその日のカオニャオを一気に炊いて、冷めたらまた蒸し直すのでこの竹籠が大変重宝



します。バーンナー村では、小さい子どもは男女関係なく、大人になると女性を中心となって竹籠を編んでいました。この竹籠は家庭で使用することはもちろん、市場で売って生活を支える資金にもなります。

郊外では、家族と一緒に田植えをしている親子の姿が度々見られました。小さな子どもたちが大人と一緒に、手作業で田植えを手伝っている姿は、微笑ましいものでした。主食が米の日本でもこのような光景が見られますが、ずいぶん少なくなりました。同じ米を主食とする



国同士、共通の姿が垣間見られ、ラオスをより身近に感じることができました。そして、米作りに欠かせない水。ラオスでは、常に水を購入し、水道水を飲むことはありませんでした。現地の浄水場視



察で、ラオスの水道普及率は約25%ということを知り、蛇口をひねれば安全な水が出てくる私たち日本人の生活について考えさせられました。これからは、安全な水が手に入る私たちの生活に感謝しながらも、安全な水が手に入らない人たちのことを考えた授業づくりを行いたいと思います。

「ラオスで感じた教育」

始めに訪れたラオス日本センターで、日本語を学んでいる生徒達と交流しました。日本文化に対する高い興味、そして将来日本を訪れたいという強い気持ちが、日本語を学習する原動力になっています。ラオスの子どもたちは、「知りたい」「挑戦したい」という気持ちが強く、自ら学ぼうとする意志があるということを感じました。この様な強い想いを持ち、行動していくことは、大切だとわかっていてもなかなか難しです。ラオスの子ども達から、「学びたい」「挑戦したい」という気持ちで日々研鑽を積むことの

大切さに気付かされました。

2カ所目は、ポリカムサイ子供文化センターです。青年海外協力隊員として活動をしている中村隊員が案内をして下さいました。ここで、心に残っていることがあります。それは、ラオスの人々の挨拶についてです。「サバイディー」という挨拶は母音のイで終わるため、発語した際に必然的に笑顔になります。このことがラオス

の人々の人柄の良さを表しているように感じました。大切なコミュニケーションツールの一つである笑顔での挨拶。私たちも意識して行っていきたいです。



そして最後は、チャンパサック教員養成校です。ここでは、教員への支援を行っている岩井隊員からお話を伺うことができました。公衆衛生に関する新たな学習分野の開拓をされていました。現地に赴任してからこれまでの活動には、想像を超える大変さがあったことが伺えました。しかし、現地の人々の生活向上のため日々挑戦し、ラオスの教員と協力して活動する岩井隊員はとても輝いていました。

ラオスの概要説明の中で、ラオスの初等教育における就学率は98.8%と高いにも関わらず、中等教育になると、45.8%まで落ち込むことを知りました。貧困等に加え、母国語で学習することができない少数民族の児童や障害がある児童への支援不足といった課題もあるようです。この研修を通して出会った協力隊の方々には、こういった教育に関わる根本的な課題を踏まえ、それらを取り巻く課題を解決すべく、環境整備や教育及び教員の質の向上に取り組んでいました。「一時的なものではなく、現地の人がそれを維持していけるようにするための支援が必要。」という言葉が印象的でした。



【チャンパサック教員養成校で岩井隊員の活動によって設置された水道】

JICA教師海外研修報告

ラオスから学んだ未来

内戦やベトナム戦争など幾多の戦火にさらされ「世界で最も空爆された国」とも言われるラオス。負の遺産・不発弾は今も多くの人々の命を奪っている。経済発展のまっただ中だが、水道などのインフラ整備は遅れ、子どもたちの教



沖縄からSDGs

育環境も十分とは言えず、課題は多い。JICA沖縄国際センターの事業でラオスを訪問した県内の教員5人に、持続可能な開発目標(SDGs=エスディーゼス)の視点でラオスの現状を報告してもらった。



ラオス独自に「18番目」目標

SDGsでは世界共通の17目標が設定されているが、不発弾に苦しむラオスは独自の目標として18番目「不発弾撤廃」を加え、持続可能な国づくりを進める。

ラオスの国連は「不発弾問題の解決は、貧困など他の目標を達成するためにも不可欠」としている。

ボリカムサイ子どもセンターにて子どもたちと交流



ラオスの市場。夏休みは多くの子どもが売り子をしている

バーンナー村でかごを編む女の子。この村の子どもは幼いころからかごを編めるという



教師海外研修 開発途上国の社会・教育事情について教員が現地視察で学び、その経験を帰国後の授業に生かし、児童・生徒の国際理解・国際感覚の醸成につなげるため、JICA沖縄センターが実施している事業。沖縄NGOセンターが事業を受託し、実施した。参加者は県全体の国際理解、開発教育を推進する中核人材として位置づけられる。今年は7月23日～8月3日の日程でラオスを訪問、現地で活動する支援団体を通して現状や課題を考えた。

環境と一体的に

健康と福祉

浦添市立牧港小学校

伊波史織教諭

ラオスのある村で、けがで皮膚が化膿した子どもを見かけた。日本だと「まずは傷口を水道水できれいに洗って」と伝える。しかし、ラオスではちゅうちよしだ。生活用水の安全性と衛生上の懸念が頭をよぎったからだ。

研修中「エコヘルス教育」を推進する青年海外協力隊の方に会った。エコヘルス教育とは「健康教育」と「環境教育」を合わせたようなもの。初めて耳にする教育

概念と村の子の姿が重なり、突き動かされた。

ラオスに来て、人間が心身ともに健康でいるには、個人の努力だけでは難しいと痛感する場面が幾つもあった。個人を取り巻くさまざまな環境、風習、社会の全てが、その土地の健康概念に含まれる。私たちの当たり前は当たり前ではないのだ。

不登校、貧困、児童虐待、薬物乱用、若年妊娠……。子どもと健康と関連する課題が沖縄にもある。養護教諭の私に何ができるのか。その目標に、SDGsの3番目の目標「すべての人に健康と福祉を」を掲げた。

まずは、子どもたちの健康概念を広げていきたい。健康とは個人資源であり、社会資源であると私は思う。単に体が丈夫というだけでなく、心のあり方も重要だ。自分を大切にすると、

相手を思いやる、挑戦する、粘り強くやり遂げる。今後はそんな心のあり方を「心のポケットを増やす」という感覚で子どもたちに考えさせたい。

そして、子どもたちには、周囲と協力しながらも、自分らしさを表現する力を身に付けてほしい。その力がいつか、よりよい沖縄の未来をつくり、世界へつながる原動力となることを信じて。私の自身の心のあり方とともに模索していく。

負の遺産、地道な処理

不発弾撤廃

宮古島市立平良中学校
座安司那子教諭

私がラオスで最も痛感したのは、日常生活の中で不発弾により多数の人が命を落としており、今もって戦争に終わりがいないことだ。沖縄でも戦後74年という月日を迎えているが、不発弾による事故、基地問題、飛行機墜落事故、貧困など生活に不安を抱えながらも黒民で力を合わせてたくましく生き抜いてきた。

ベトナム戦争では、戦後



地雷の鉄くすから作られたスプーンなどの商品。隣が地雷被害者の資金造成。『され』

も生活に支障を来す効果も狙って7千万発の不発弾が投下され、ラオスに負の財産が残った。全てを取り除くためには100年を要すると予測されながらも、SDGsの18番目の目標に掲げ地道に撤去作業に取り組んでいる。地雷の鉄くすを使ってスプーンやフォークなどの商品にし、生活の足しへと変えてたくましく生き抜いていくとする姿に目を向けること。『学ぶ』は、戦後復興した沖縄の祖先たちの姿と重なり胸が熱くなった。

しかし、輸血ができないため治療ができなかったことや治療できる設備のある病院を探している間に命を落とすことがたびたびある。



空爆から逃げ惑う親子の銅像。素材には不発弾。『首都ヒエンチャンのコープレジターセンター』

出している

寄り添った支援を

水の安全

名護市立久辺小学校
大城英樹教諭

ラオスでは水道水を飲むことはなかった。歯磨きや

うがいも水道水を使用しないようアドバイスされ、購入した水を大切に使った。トイレでは、側にあるため

が、SDGsの目標6「安全な水とトイレを世界中に」を目指するために、支援が必要不可欠だと感じた。現地の浄水場を視察し、ラオスの水道普及率が約25%であることを知った。課題解決に向けたプロジェクトに携わる日本人技術者の「自分たちで進めるのは簡

単だが、ラオスの人が自らの力で進められるようサポートしている」という話が印象に残った。国際協力は一方向的な支援ではなく、現地の人に寄り添いながら進めていくものだと思えた。

ラオスを見て、日本、沖縄を考える。当たり前の生活を外国の生活と照らし合わせ、今の私たちの生活を振り返り、世界の課題に対して自分たちができることを考え、世界中の人がよりよい生活を目指していく必要があるのではないだろうか。これからは、新たな視点で日常生活を振り返り、児童と共に自分たちができることは何かを考えたい。



ラオスの教員養成校で
交流する派遣教員ら

理解と共有が大切

パートナースhip

うるま市立あげな中学校

富路直樹教諭

SDGsの目標17に「グ

ローバルパートナースhip

を活性化する」とある。海

外研修で訪ねた「アジアの

障害者活動を支援する会」

は、グローバルパートナ

ーとして「就労支援」と「ス

ポーツ支援」の二つの側面

から、生活の質の向上や生

きる力の育成、障がい者の

社会参加を目指した支援を

行っている。それぞれの障

がいの特性を生かした支援

の在り方に、生徒のニーズ

に合わせた教育を重ねて見

ることができた。

特に、皆で体験した「卓

球バレー」は、大きな声を出したり笑ったりと、その

ルールの分かりやすさや参加のしやすさから「どうや

ったら、一緒にできるのだ

ろうか」と、バリアフリー

について楽しみながら考え

ることができた。

それ以外にもラオスでは

多くの日本人が国づくりの

お手伝いや支援を行ってい

る。携わる方々の表情や口

調が穏やかなところも印象的で、現地の人と試行錯誤した日々がそのように変化させていったのではないかと感じた。

人や環境等を知ろうとす

ること、理解しようとする

こと、共有しようとするこ

とが大切だと考え「パート

ナースhip」と「教師とし

ての姿勢」との共通点を見

つけることができた。



鏡原中 給食にラオス料理

カオニャオ風ごはん ■ ラープ風豚肉炒め

【那覇】異文化体験を目的に、市立鏡原中学校で19日、ラオス料理の給食がでた。カオニャオ風赤米ごはんやカオソーイ風ビーフンスープ、ラープ風豚肉炒めなど、生徒たちは初めて食べる料理に興味津々だった＝写真。

同校の笠野麻衣子教諭(家庭科)が去年の7～8月にJICA沖縄主催の海外研修に参加し、ラオスを訪問した。「現地の料理を生徒にも食べて、ラオスに興味を持ってほしい」とメ

ニューを考案。ラオス料理によく使われるナンプラーなどの調味料は食物アレルギーを持つ生徒を考慮してオイスターソースで代用し、生徒が食べやすいようにアレンジを加えた。

3年の玉城亮太郎さん(14)は「ご飯に豆が入っていておいしかった。おかわりがほしいことが残念」と話し、3年の上原直也さん(15)は「初めてラオスのご飯を食べた。特にラープ風豚肉炒めがおいしい」と給食を堪能していた。

「おかわりないの残念」

「誰かのため」喜びに

教育

那覇市立鏡原中学校
笠野麻衣子教諭
ラオスのバーンナー村で
ホームステイをした時、持
参したトランプで子ども
たちと娯楽をした。隣に
いた子どもが、小学校でさ

らッアウトする子が少な
くないと、日常生活のす
ぐそは不登校があり、今
も彼が抱えているとま
ど、多くのことを考えさ
された。

「日本で良かった」で終
わらせてはいけません。私は
ラオスでの学びを通して、
子どもたちに身に付けてほ
しい力が変化した。先入観
や偏った価値観が自分の中
にあることを知り、身に付
けた知識・技能や経験を、
誰かのために使えようと思
うことにしました。

そのために子どもたちに
自信を持たせたい。ラオス
で聞いた日本の子どもの風
いところは、こどもを精
に育てる。違いや向
気ないことが個性を認め
ば輝きになることもある。

○連載「数家から見た
きます」は2月1日掲載し
ます。

授業実践報告

教室でせかいたんけん！

氏名／伊波 史織 学校名／浦添市立港川小学校

■ 担当教科／養護教諭 ■ 実践教科／道徳・学活 ■ 時間数／8時間 ■ 対象学年／第2学年 ■ 人数／29人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標		
○自分の身近なところから、ラオスや世界との繋がりに気づき、より広い世界に目を向けるための素地を養う。 ○学習を通して、他者の考えに興味を持ち、違いは認め尊重する態度や、学び合おうとする意識を持たせる。		
【2】 単元の 評価規準	(ア) 知識・技能	身近なところに、世界との繋がりがあことを理解している。 自分の生活と比べたり、関係を見つけれたりすることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	物や写真等の資料、教師の話、友達の意見を基に、ワークシートにまとめたり、発表したりすることができる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	他国の人々や文化について興味・関心を持ち、グループ活動や発表等の学習活動に進んで取り組もうとしている。
【3】 単元設定の理由	日々、「グローバル化」を体感する機会が増え、国際理解や国際親善は重要な課題である。本単元では、「足元から世界に目を向ける」をキーワードに、万人に共通する「健康」の視点から国際理解への繋がりを探る授業展開を設定した。 <児童/生徒観> 明るく素直で自由な発言をする児童が多いが、「一人ひとりの話を否定せずきちんと聞く」という雰囲気が学級の中で成立している。また、日常的に学級の挨拶や担任の指示を英語で行うこともある。ラオスという未知の世界についても先入観なく受け入れることができ、児童の興味・関心をより広げていけるのではないかと考える。 <教材観> グループ活動を中心に、児童が「楽しかったけど、ちゃんと自分のことも外国のことも分かったよ！」という内容を意識した。「食・からだ・心・水・生命の健康」を主軸に、自分と世界との繋がりを考えられるような授業展開とした。4時間目の心のポケットは、事前に「友だちの良いところさがし」の活動を行っていたので、「良いところ」を「心のポケット」に変換して児童に考えさせ、イメージが掴みやすいようにした。SDGsについては、本校の取り組みに絡めて紹介し、興味・関心を高められるようにした。 <指導観> 物・写真・世界地図等を活用し、児童が直感的に考えられるようにする。児童には、偏見や先入観なく、自分達とは異なる文化があることに気づいてほしいので、発達段階も考慮しながら、ラオスのポジティブな面に多く触れ、共感や親しみを持たせたい。その上で、他国の人々との交流や違う文化を味わう良さについて触れ、他者尊重の気持ちや異文化理解に繋げていく。	

【4】展開計画(全 8 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 学活	「ラオスってどんな国？」 ねらい ラオスの存在を知り、興味・関心を持つことができる。	①モノランゲージ ラオスに関連する物について、実際に見て触れながら自由に考え、予想や気づきを発表する。 ②教師の説明を聞き、ラオスについて知る。	・ラオスで購入した物 ・パワーポイント ・ワークシート
2 学活	「フードマップを作ろう」 ねらい 食べ物で自分と世界が繋がっていることに気づく。	①フードマップを作成し気づきや考えを発表する。 ②「世界の食卓」の写真から、世界の食事の様子や食事方法について知る。 ③普段食べている給食には、沖縄の食材がたくさん使われていることを知る。	・世界地図 ・チラシの切り抜き ・教材「世界の食卓」 ・ワークシート
3 学活	「ラオスも同じ！けんこうはたからもの」 ねらい ラオスの学校の様子や青年海外協力隊の活動から、からだの健康について考える。	①フォトランゲージ 写真から分かることを話し合い、発表する。 ②協力隊のメッセージや活動内容を教師から聞き、ラオスの子ども達も健康について学んでいることを知る。	・ラオスの学校の写真（協力隊提供） ・メッセージ動画 ・パワーポイント ・ワークシート
4 道徳 (本時)	「地きゅうのみんながもっている！心のポケット」 ねらい ○自分の心のポケットに気づくことができる。 ○自分が育てたい心のポケットについて考える。 ○心の健康を考える。	①心はどこにあるのか考える。 ②前時の児童の感想から、友だちが持っているいろいろな心に気づく。 ★いろいろな心＝心のポケット ③ペアで友だちの「心のポケットさがし」をする。 ④自分が持つ心のポケットに気づく。 ⑤育てたい心のポケットを考え、発表する。 ⑥心のポケットは世界中誰にでもあることを知る。	・ラオスの学校の写真（協力隊提供） ・前時の児童の感想 ・パワーポイント ・ワークシート
5 道徳	「托鉢出前講座」 ねらい ラオスの習慣を知り、異文化への興味・関心を高める。	教師海外研修の随員・玉城直美氏授業。 ①写真や絵から、ラオスの暮らしや食生活、子ども達の様子について知る。 ②托鉢体験	・托鉢セット（餅米・竹籠・布） ・パワーポイント ・ワークシート
6 学活	「世界がもし 100 人の村だったら」 ねらい 世界の現状を知り、自分達の暮らしを見つめ直す。	①行ってみたい国について考える ②世界の人口クイズ(50 年前・現在・30 年後) ③世界の現状について学ぶ 参加型学習で体験する。	・教材「世界がもし 100 人の村だったら」 ・パワーポイント ・ワークシート
7 学活	「おへそのひみつ」 ねらい ○人間は、誕生前から現在まで、母親や家族の愛情により大切に命を育まれて	【性・エイズ教育との抱き合わせ授業】 ①托鉢にはどんな意味があったか思い出させる。 ★母親のお腹で成長する胎児の様子 ★妊娠した女性の気持ちを男性も知る ②ハートの形の画用紙を配布し、気づきを発表。	・教材「おへそのひみつ」 ・托鉢の写真 ・托鉢体験の動画 ・ハートの形の画用紙

	きたことに気づく。 ○自他の命を大切にしようとする気持ちや態度を育む。	③画用紙の小さな穴は、命のもとの大きさと、命のはじまりは世界中誰でも同じだと知る。 ④命のもとがお腹の中で大きく育つひみつについて考える。 ⑤担任の先生から出産時の話を聞く。 ⑥自分や友達だけでなく、世界中の誰もがかけがえのない存在であることに気づき、互いに大切にしようということについて理解する。	(針で穴をあけたもの) ・パワーポイント ・ワークシート
8 学活	「SDGsってなあに？」 <u>ねらい</u> ○SDGsを知り、興味・関心を持つことができる。 ○自分の生活を振り返り、身近に自分と世界との繋がりがあ ることを理解する。	①世界の問題・課題について知る。 (戦争・環境破壊・貧困・病気等) ②10年後の未来について考える。 (18歳の未来:世界を動かす存在) ③SDGsについて知る (世界の未来を変える17の目標) ④本校の活動で、SDGsに繋がる取り組みを知り、SDGsのどの目標に繋がるか考え、発表。	・SDGsカード ・パワーポイント ・ワークシート
(他) 学校 保健 委員会	【保護者向け講話】「ラオスの現状から学校保健を考える」 ①教師海外研修について ②SDGsについて ③これまでの授業実践について <u>ねらい</u> 児童と保護者が一緒になって世界に目を向ける機会を作りたかった。また、ラオスや世界の現状を切り口に、自分自身の健康や生活を見直すきっかけを、児童だけでなく保護者にも伝えたいと考えた。		

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
	・前時の振り返り ・からだの健康の大切さについて考えた。 【発問①】健康は「からだ」だけのものですか？ (予想される反応) → 心も 【発問②】みなさんの心はどこにあるのでしょうか？ (予想される反応) → 胸に手を当てる、心臓、頭 ◎「今日は、そんなよく分からない心についての学習をします。」 ◎「目には見えませんが、人間の心にはポケットがあります。ポケットの中には、さらにいろいろな心を大切に閉まっています。」	・ラオスでもからだの健康について学んでいたことを思い出させる。 ・めあての提示 めあて：心のポケットについて考えよう！ ・目に見えない「心」を視覚化する ＝「心のポケット」 ・自分の中の「心」はひとつではないことに気づかせる。	・ラオスの写真 (協力隊提供) ・パワーポイント ・パワーポイント ・ワークシート

	・見つけた！心のポケット！ 【前時の学習の感想より】 ★水道ができて、ラオスの人たちはうれしそうにいらして、ぼくはあんしんしました。 ★ラオスの子どもたちの学校の生かつはたいへんだなと思いました。 ・読み取った「心のポケット」 - うれしそう、あんしん、たいへん	・児童が書いた前時の学習の感想を提示し、友だちの「心のポケット」を読み取らせる。 ・1回目は教師が例を示す。 ・同じ学習をしているのに、人によっていろいろな「心のポケット」があることに気づかせる。	・前時の児童の感想
	【発問】友だちの心のポケットをさがそう！ ・友だちの「心のポケットさがし」 →隣同士ペアで活動。見つけた心のポケットを相手に伝える。 ◎「お友だちの心のポケットに気づいた人は、自分もそのお友だちと同じポケットを持っています。」	・友だちの「良いところさがし」をしたことを思い出させる。 ・隣の友だちの心のポケットがさがせない児童は、仲の良い友だちや家族のポケットについて考えさせる。 ・心のポケットに気づく →すでに自分も持っているから感じ、気づくことができる。 ・自分にもそのポケットがあることを感じ取らせる。	・ワークシート
	・自分が育てたい「心のポケット」について考え、発表する。 ◎「心のポケットは、世界中の誰でも持っていて、世界中どこまでも続いている。」 ・青年海外協力隊の活動 ・教師のラオスでの体験 ・前時の学習の感想	・ワークシートに記入 ・青年海外協力隊の活動（健康診断・手洗い・歯みがき指導の導入、水道の設置）について振り返る。 ・行ったことも見たこともない遠い国（ラオス）のことを感じる心のポケットを自分が持っていることに気づかせる。	・ワークシート
	【発問】 - みなさんの心はどこにあるのでしょうか？ 【児童の答え】 - 心は、人、もの、どうぶつの中にあって、どこまでもつながっている。 ・感想をワークシートに記入	・心がどこにあるかの正解はないため、学級の児童の声からひろう。	・ワークシート

【授業実践の様子】(授業の様子写真)

1時間目:ラオスってどんな国?

(モノランゲージの様子)

中国のえらい人が着るのかな?

七五三みたいな
おめでたい時の
衣装だと思う!



2時間目:フードマップを作ろう

(フードマップ作りの様子)

ラオスの物も沖縄にきているのかな?



韓国って、大韓民国って言うの?
地図にアメリカが2つあるよ!

3時間目:ラオスも同じ!けんこうはたからもの

(青年海外協力隊の活動について児童の感想)

かつどう ② 今日の学習のかんそうをかこう!

ラオスでも、日本の人が教えて、けんこうをまもるんだ
としました。
空さんののじょうずを見たので、二年五組ののじょうずも
あげたいです。
ラオス人は学校がすきだとしました。

ラオスでも日本の人が教えて、健康を守るんだと知りました。
空さんの動画を見たので、2年5組の動画もあげたいです。

5時間目:托鉢出前講座

(托鉢体験の様子)



何だかドキドキする!

托鉢のあとに食べたもち米が、
世界で1番おいしかった♪

【6】本時の振り返り

○心をポケットとして具体化・視覚化したことで、児童の意欲的な発言や積極的な活動がみられた。

○「心のポケットさがし」を通して、相手を認め、思いやる態度や児童の自己発見に繋がった。

○これまでのラオス学習を振り返ることで、新たな視点で「心」について考えさせることができた。

●心のポケットに閉まってあるのは「気持ち?心?」という児童もいた。説明や表現に工夫が必要と感じた。

●今回、ポジティブな心のポケットのみに焦点をあてたが、発達段階に応じて、ネガティブな心のポケットも人間は持っていることに触れれば、より広がりのある授業ができると感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

好奇心旺盛な児童が多く、ラオスや世界についての話に興味津々な様子だった。「次はラオスの何のお勉強?」「図書館の本にラオスがのっていたよ。」という声や、「ラオスのお金を見てみたいな!」と授業で話していないことについても進んで興味を持ち、積極的に疑問を投げかける児童もいた。また、授業以外でも「サバイディー」「コープチャイライライ」とラオ語で挨拶をしたり、他の学級の児童や保護者に教える様子もあった。

ラオスと沖縄の似ているところ(過去に戦争があった、不発弾がある、自然が多い、人々が優しい)については「あ!一緒!」と素直な反応があった。似ていないところ(トイレが水洗ではない、手でご飯を食べる、外で食べ物売っている)については、「かわいそう」「ラオスって貧しいの?」など一瞬ひるむ児童もいたが、「大変そうだけど、ラオスの人は頑張っているね。」「手でごはんを食べたら楽しそう。」など肯定的な声に、「そっか!そうだね!」と納得する反応がかえっていた。学習を進めるごとに、多様な価値観や考え方を受け入れ、広げていけるような雰囲気学級全体に芽生えたと感じている。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	・低学年に伝わるような表現や言葉の言い換えが難しかった。伝わらない時は、学級担任の先生がフォローして下さり、とても有り難く大変勉強になった。 ・ラオスでの経験を授業に取り入れることが難しく、授業展開が強引になってしまった。
2. 改善点	・パワーポイントに頼りすぎてしまい、板書が足りなかった。授業の終盤のまとめや振り返りの時に、私だけでなく児童も困惑することがあった。 ・授業の内容が盛りだくさんになり、児童の感想と私が伝えたいことにずれがあった。 ・授業では、ラオスのポジティブな面を多く紹介したが、そうでない部分についてうまく伝えることができれば、児童がもっと深く考える活動ができたと思う。
3. 成果が出た点	・ラオスをきっかけに「他の国のことももっと知りたい！」という感想が増えた。 ・グループ活動で、友だちの考えや意見に「それいいね」「じゃあこれは」といった児童同士の関わり合いが見えた。共感性や安心感の中で発言・発表も自由に展開できた。

添付資料：

① 心のポケット ワークシート

年 級 名 前 ()

かつどう① 友だちの「いいところさかし」をしよう！

○お友だちの名前 さん

○お友だちのいいところ..

かつどう② お友だちの心のポケットをさがそう！

○お友だちはどんな「心のポケット」をもっていると思いますか？..

かつどう③ お友だちが持っていた「心のポケット」をかこう！

とどろい 心のポケット

【児童の育てたい心のポケット】※抜粋

- ・やさしさ ・えがお ・ゆうかん ・がまん
- ・はじめて ・チャレンジ ・しぜん
- ・しゅうちゅう

②SDGs(港川小の取り組み)

☆体育館で卒業式をできなかった6年生。
取り壊された体育館の廃材で地元の海
とそこに住む生き物を表現した卒業制作



浦添市に残る数少ない自然を守るために「自分達に
できることをしよう！」という6年生のメッセージ。
(※旧体育館での最後の新入生は現2年生)

参考資料：

- ・小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編（文部科学省）
- ・写真で学ぼう！「地球の食卓」学習プラン10 改訂版（DEAR 特定非営利活動法人 開発教育協会）
- ・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版（DEAR 特定非営利活動法人 開発教育協会）
- ・基本解説 そうだったのか。SDGs
- ー「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」から、日本の実施指針までー
（一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク）
- ・共につくる私たちの未来 SDGsから「持続可能な社会の創り手」への一歩を（JICA 地球ひろば）
- ・JICA 地球ひろば 2019年10月15日〈<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html>〉
- ・「世界食料デー」月間 みんなで食べる幸せを 2019年10月25日〈<https://worldfoodday-japan.net/tool/>〉
- ・特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド 2019年11月9日〈<https://www.hungerfree.net/about/>〉
- ・教師海外研修でいただいた資料、JICA 沖縄教師海外研修ラオス共和国実践報告書（2015年度・2017年度）

沖縄から世界へ

～世界の人々とどのように関わり、私たちは何ができるだろう～

氏名／大城 英樹 学校名／名護市立久辺小学校

■ 担当教科／全教科 ■ 実践教科／社会、総合、道徳 ■ 時間数／6時間 ■ 対象学年／第6学年 ■ 人数／28人

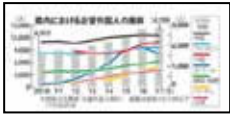
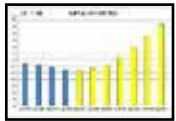
【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標:		
日本や世界の人々が、ラオスの人々の生活支援や技術援助などの国際交流や国際協力を行っていることを調べ、これから自分自身が取り組むことができる役割について考える。		
【2】 単元の評価 基準	(ア) 知識・技能	・世界の平和や環境を守るために人々が協力して活動していることを知り、国際社会の中で日本が果たしている役割や課題について理解する。 ・ラオスの現状や課題について、研修中に撮影したラオスの人々の様子がわかる写真や法務省の統計資料などを活用して調べ、自分の考えをまとめることができる。
	(イ) 思考・判断・表現	・ラオスの現状について学習課題を設定し、考えることができる。 ・ラオスで起きている問題と、その解決のために行われている活動を結びつけて考え、すべての人が安心して暮らせる社会の実現に向けて大切なことを、自分なりに表現している。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・ラオスで起きている問題の解決に向けて取り組んでいる人々の活動に関心を持ち、学習課題や予想、学習計画を考え、意欲的に追究しようとしている。 ・国際連合の働きや我が国の国際協力について考え、これから自分自身が取り組むことができる役割について考えようとしている。
【3】 単元設定の理由	現代社会はグローバル化の進展や技術革新等により、様々な分野で急速な変化が起こっており、予測が困難な時代となっている。このような社会において、現代社会の特質や課題を世界規模で考え、それらと自分との関わりやつながりを見いだし、身近な地域社会からよりよい社会の発展に貢献する活動を行う「グローバル」な人材が望まれている。そこで、本単元を通して、世界の課題を理解し、自分ができることを考え実行できるようになってほしい。 ＜児童/生徒観＞ 本学級の児童は、外国や外国人に対しての興味・関心が高く、外国のことを取り上げたテレビ番組が好きな子が多い。教室に置かれた地球儀や地図などを使って問題を出し合って遊ぶ姿もよく見かける。また、海外移民との交流の際は、外国の様子の説明に目を輝かせて聞き、文化体験では楽しく参加していた。一方、数名の児童は、文化の違いに対して興味・関心が低く、他国の文化や習慣について肯定的にとらえていない場面も見られた。	

<教材観> 本單元では、外国の様子としてラオスを中心に持ち上げ、文化の多様性や日本とのつながりの深さを理解し、これからの関係の在り方を考えさせ、お互いの文化を尊重する態度を育成できるようにしたい。また、ラオスでの環境の保全と平和の維持などを通して、持続可能な社会を目指していくためには、国際的な協力が必要であることをつかませ、国際連合の活動の目的と重要性、日本の役割について捉えさせることを目的とする学習内容である。 <指導観> 海外研修で得た写真や動画を教材として活用し、互いのよさや思いを理解し合うことの大切さを捉えさせる。また、すべての人の人権が守られ、安心して暮らすことのできる社会の実現に向けて、自分たちはどのように考え、行動していくべきなのかを考えさせる。			
【4】展開計画(全 11 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	世界で活躍する日本人	中村哲さんのアフガニスタンでの功績を知り、世界各地で日本人がどのような活動をしているのか調べ、学習問題をつくる。	写真・新聞記事 (ハフポスト)
2	ラオスってどんな国	ラオスに関する物からそれが何か考え、ラオスはどのような国か予想する。	PPT 写真・具体物(ラオスより) WS(自作)
3 本時	ラオスの人々の暮らし ラオスでの托鉢の様子から、日本の文化や習慣との違いを捉え、異なる文化や習慣を尊重し合うことが大切であることを理解することができる。	ラオスにおける托鉢から他文化を尊重し、在留外国人が増えている沖縄の今後の社会について考える。	写真・動画・ WS(自作)統計資料 (法務省、沖縄タイムス社)
4	ラオスで起きている問題とは	ラオスでの生活の様子などの写真や資料などからラオスで起きている問題について知る。	写真・WS(自作)
5	ユニセフのはたらき	ラオスの子どもたちの健康や安全を守るユニセフのはたらきについて調べる。	写真・動画(自作) 資料(ユニセフ)
6	国際連合のはたらき	世界の人々の平和と安全を守る国際連合のはたらきやラオスにおける平和活動について調べる。	写真・具体物 動画(copelaos)
7	地球の環境とともに生きる	地球環境を守りながら、持続可能な社会を目指していくために、世界の人々が協力して取り組んでいる事例について調べる。	写真・資料集

8	交流の輪を広げる	伝統文化やスポーツなどを通して、異なる文化や伝統をもつ人々が交流し、互いの理解を深めている事例について調べる。	写真・動画・(自作)
9	SDGsとは何だろう	SDGsについて知り、どうして社会をまきこんでSDGsが進められているのか考える。	動画(SDGsナビ) WS(自作)
10	よりよい社会をともにひらく	現代に残されている問題に目を向けながら、国際社会の一員として何を大切にしていけばいか話し合う。	動画(毎日新聞)
11	将来に向けて自分たちができることを考えよう	学習をふり返り、だれもが安心して生き生きと暮らせる社会の実現に向けて、SDGsの目標に沿ってこれから実行したいことや学びたいことを吹き出しに書く。	動画(ユニセフ) WS・吹き出しカード (自作)

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (7分)	○絵文字を読み取る ・空港で見つけた絵文字です。絵文字は何を表しているのでしょうか。 ・どうしてその絵文字が必要なんだろう。	児童が知っている絵文字から順に考えさせる。  ・写真から読みとったことを自由に記入するよう促す。	・写真 (ラオスで見かけた絵文字)
展開 (33分)	○街中でお祈りしている様子を写真から読み取る。(交流15分)  ○托鉢の様子動画を視聴し、感じたことを書く。 ・文化や習慣の違う外国人が日本にはどれくらい住んでいると思いますか ○在留外国人が増えていることを資料から読み取り、外国の人たちとともに生活していくにはどうすればよいのか考える。	◇托鉢の目的についての説明を加える。 ◇グラフの読み取り後、外国人の労働力によって生活が支えられていることを説明する。  ・学習を通して、感じた気持ちをもとに感想を書くように促す。	・写真 (托鉢の様子) ・動画 (托鉢の様子)  ・在留外国人の推移グラフ (総務省より) ・県内における在留外国人の推移グラフ (沖縄タイムス社より)
まとめ (5分)	○学習をふりかえり、感想を書く。		沖縄NGOセンター出前講座感想シートより

【授業実践の様子】(授業の様子写真)



フォトランゲージの様子



グループによる読み取り



動画視聴 (托鉢の様子)

【6】本時の振り返り

- ・児童の生活習慣とラオスの生活習慣(托鉢など)を比較することで、児童が主体的に話し合い、理解しようとする態度がみられた。児童にとって身近なことを教材化することは効果的だと考える。
- ・フォトランゲージで同じ写真を使用したため、グループ発表では同じような意見が出た。グループごとに多様な写真を使用し、様々な考えができると思う。
- ・県内在留の外国人の増加やその働きについて知ること、その役割の重要さや共生の大切さに気づき、新たな視点をもつ児童が見られた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

○児童の考え (外国の人々との関わり方)

・外国人が日本に来たのはいいけど、
・外国の文化を勉強していいけど、
・日本人の文化を勉強していいけど、

外国人の文化を勉強していいけど、
日本人の文化を勉強していいけど、
外国人の文化を勉強していいけど、

外国人の文化を勉強していいけど、
日本人の文化を勉強していいけど、
外国人の文化を勉強していいけど、

外国人の文化を勉強していいけど、
日本人の文化を勉強していいけど、
外国人の文化を勉強していいけど、

本時ワークシート記述より

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

○自分たちにできること、授業後の感想 (第11時より)

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

○授業後の感想 (第9時より)

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、
外国人が日本に来たのはいいけど、

【8】自己評価	
1. 苦労した点	①教材研究をする中で、多様な見方ができるような資料を収集したり、それを児童の実態に合わせて加工したりすることに多くの時間を費やした。 ②「ラオス」という国についてほとんどの児童が知らなかった。そこで、事前に他の教科と関連づけて段階的・継続的にアジア諸国について触れ、本単元に臨んだほうがよかったと考える。
2. 改善点	①児童のふりかえりより、托鉢の様子について一人の児童から「かわいそう」という記述があった。ラオスにおいて托鉢が精神的な支えであることを強調して説明すべきであった。 ②写真を読み取る際は、事前にいくつか視点を与えたほうがよかった。 ③世界の課題に関する統計資料を充実させ、子どもたちが資料を活用して、自分の考えを説明する活動を取り入れることが不十分だった。
3. 成果が出た点	①写真や動画を通して、アジアにあるラオスという国を知り、その国の文化や習慣について学ぶことができた。 ②沖縄ではあまり見られない托鉢について知ることによって宗教の違いについて理解し、世界には多様な考え方があることに気づいた。 ③在留外国人の話題に触れることで、実社会において自分たちがどう関わっていく必要があるのか具体的に考えることができた。 ④世界の現状を知り、SDGsがどうして社会を巻き込んで進められているか考えることで、自分たちが今できることを考えることができた。

添付資料：

使用したワークシート

班 組 番 名前（ ）

ゆあて

①ラオスの空港で発見。この絵文字は何を意味するのだろうか。



②()の様子の動画をみてどう感じましたか。

③外国の人たちと共に生活していくにはどうすればよいのかあなたの考えを書きましょう

④学習をふりかえろう

☆今日の学習をして、あなたの気持ちに一番近いもの3つに○をつけよう

おどろき	おもしろい	かわいそう	なんとかしたい	うれしい
腹が立つ	わけがわからない	仕方がない	心配	こわい
自分には関係ない	わくわく	どうにもできない	悲しい	

☆どうして、そのような気持ちになったのか書いてみよう。

〈注〉1) 社会科の授業においては、筆者の準備した教材以外にも、社会科の教科書「小学校社会科 6 年下」(教育出版)や「楽しい社会科6年下」(沖縄時事出版)を活用して、授業をすすめている。

参考資料

- ・文部科学省 2018 『小学校指導要領(平成 29 年告示)解説 社会編』 日本文教出版
- ・「小学校社会6下」 2014 年 教育出版
- ・楽しい社会科下 沖縄県版 2019 年 沖縄時事出版
- ・『社会科資料集6年』 2019 年 光文書院
- ・『開発教育実践ハンドブック』 2012 年 特定非営利法人 開発教育協会

参考 URL

- ・ユニセフ 世界の子どもたち ストーリーを読む
https://www.unicef.or.jp/children/children_now/laos/index.html (2020年 3 月最終アクセス)
- ・沖縄タイムスプラス 2017 12 月 21 日
『人口増加率全国トップの沖縄、その 4 割が外国人 中国・ベトナム人が著しい伸び』
<https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/185435> (2020 年 3 月最終アクセス)
- ・法務省 平成29年末現在における在留外国人数について(確定値)平成29年末現在における在留外国人数について(確定値)
<http://www.moj.go.jp/content/001308162.pdf> (2020 年 3 月最終アクセス)
- ・ハフポスト 2019 年 12 月 08 日 『中村哲医師の肖像画を尾翼に掲げた写真、アフガニスタンの航空会社が投稿。「いつまでも恩義を感じることでしょう」』
https://www.huffingtonpost.jp/entry/nakamura_jp_5dec647fe4b05d1e8a52906b (2020年 3 月最終アクセス)
- ・COPELAOS WHAT' S HAPPENING UNEXPLODED ORDNANCE (UXO)
<http://copelaos.org/what-is-happening/unexploded-ordnance/ending-the-threat-of-cluster-bombs-and-uxo/> (2020 年3月最終アクセス)
- ・ユニセフ 持続可能な開発目標(SDGs)関連動画
<https://www.unicef.or.jp/sdgs/movie.html> (2020年3月最終アクセス)
- ・毎日新聞【ノーカット】グレタさん国連・気候行動サミット演説
<https://www.youtube.com/watch?v=PahnVMxQulk> (2020年3月最終アクセス)
- ・SDGs ナビ ch
<https://www.youtube.com/watch?v=G79pck40Lqo> (2020 年3月最終アクセス)

みんなの力が1つになったとき

氏名／座安 可那子 学校名／宮古島市立平良中学校

■ 担当教科／保健体育・美術 ■ 実践教科／特別活動（学級活動）・道徳

■ 時間数／6時間 ■ 対象学年／全学年対象 ■ 人数／35人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標:			
○SDGsやラオスについての学習を通して、外の世界について目をむける力を素地を養う。 ○ラオスの学習を通して、自分から学ぼうとする力、新しいことを知ろうとする力、誰かのために何かをしたいと思う力を育てたい。			
【2】 単元の 評価規準	(ア) 知識・技能	・SDGsやラオスのことについて理解しようとし、ラオスについての知識を1つでも身に付けるようにする。	
	(イ) 思考・判断・表現	・物や写真や絵本、教師の話や生徒同士の話しあいなどから、ラオスと自分達の違う所や似ている所を見つけたり、自分たちにできることはないかなど、意志決定したりすることができるようにする。	
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	・ラオスの生活や文化を学ぶことで、他者と協働して社会や自己の課題を解決するとともに、将来の生き方を描き、その実現にむけて、日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。	
【3】 単元設定の理由	<児童/生徒観> 本単元で学ぶ学習内容について生徒は、一度も学習したことがないため、導入で生徒が興味ある活動の工夫を取り入れた。授業を通して他国を身近に感じることが出来るような展開に注意して取り組んだ。 <教材観> 1 人ひとりが学習に関わるることのできる教材となっている。また自分から学習に取り組んだことを学級の仲間と教え合ったり、発表したりすることで充実感や達成感を味わうことのできる教材である。 <指導観> 本単元を通して、ラオスに関する遠い国の存在を知り、宮古や沖縄と比べたり、同じ中学生でも住んでいる環境が違うことで、自分たちが恵まれている事を知り、「何かできることはないかな?」「○○だったら自分もできるからやってみよう」という気持ちが湧き出てくるように取り組んだ。また、自分たちだけでの生活だけでなく周りにも目をむける事のできる力を育てたい。		
【4】展開計画(全 6 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 学活	「テーマ」知らないこと見をつけよう・知りたいことを沢山見つけよう 【ねらい】・SDGsの17の中から自分の興味のあることを見つけることを通して、自分の Exercise として捉える力を育てる。	①BINGO クイズ ②SDGsについて知る ③調べてみたいものを見つける。	・パワーポイント
2 学活	「テーマ」クイズを通してラオスを知ろう。 【ねらい】 ラオスのクイズを通して、ラオスと沖縄の似ている所・ちがう所を見つけることで、外国を身近に感じる力を育てる。	①国旗クイズ ②ラオスクイズ	・パワーポイント

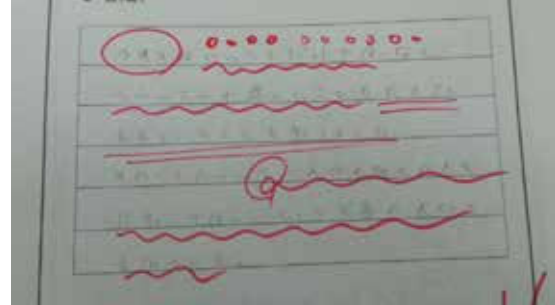
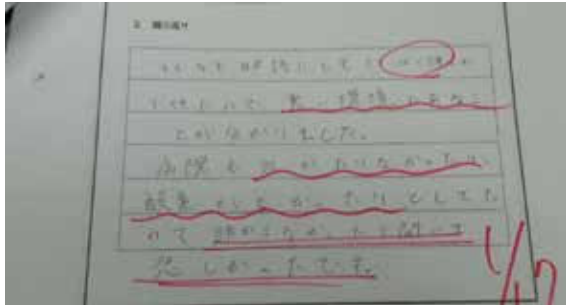
(25 分) まとめ (15 分)	3、動画1を見せる(ラオス語) ○どんなお話かわかりますか。 ●わからない ●家族の話かな ●小さな男の子が出てきている 4、動画2を見せる(ラオス語＋字幕(英語)) ○沢山の人に知ってもらいたいために、画面の下に何かがあるよ。これは何語？ ●英語 ○あ、そういえば皆さんも日本語以外の語学を学んでいますよね？じゃあみんなでお話について調べてみませんか？ 5、トライ1 辞書を使う 6、トライ2 調べたことをみんなの前で発表 ※ラオスのことについて日本や沖縄との違いをおさえながら補足説明入れる。 7、授業のふりかえり 8、発表 9、教師の説話	・ラオス語に触れさせる。 英語→日本語へ 学年によって時間がかかったが、生徒がわからないことを仲間に伝えるために一生懸命伝えるので時間を確保してあげたい。 ・今日の授業を通してわかったことはやほじめて知ったことを書かす。
--	---	---

【授業実践の様子】(授業の様子写真)



【6】単元を通した児童生徒の反応/変化

- ・学習したことをほとんどの生徒が興味を持って覚えていた。
- ・授業後、生徒がとっても楽しかった。もっと知りたかったと学ぶことに意欲手になっている姿を見れた。みんなで力を合して、読解していくことをはじめてやったが達成感があつたようです。
- ・単元を通して、生徒がラオスのことを自分のこととして捉えたり、自分ができることを考えようとするできるようになってきた。



病院も血がたりなかったり、酸素がなかったりして助からなかったと聞いて悲しかったです。

ラオスにはいいことだけでなく、つらいことや悲しいことも沢山あるということを知りました。

【7】自己評価

1. 苦労した点	・自分達の問題として捉えることができるような授業の流れにもっていくことラオスやラオスやその他外国と日本の生活・文化の違いや似ている所をどう気付かせるかということ。 ・地雷などの被害にあった子どものことを知り、可哀想と思うだけでなく、自分だったら何ができるかと心に響く発問や言い方。
2. 改善点	・伝えたいことを盛り込みすぎると情報量がパンクしてしまうので、内容を絞って取り組んだ。 ・ラオスと沖縄の繋がりは生活の色々な所にあふれているが、50 分の授業でどのように厳選して授業にしていけることができるかが大切だと感じた。
3. 成果が出た点	・1 人ひとりが調べたことを発表し、物語がだんだんとわかっていくことができる仕組みをしたことで、生徒自身が自分の頑張りが他者への貢献に繋がっていくことを味わうことができた。 ・動画を使用することで、ラオス語に少しだけ触れることができた。 ・さらに地雷と子ども(中学生に近い年齢の子の被害など)に焦点をあてたところから授業構成を行い、授業実践したことで、よりラオスが抱えている問題を身近に感じさせることができた。また、今もずっとその解決にむけて取り組んでいることを知ることで、「自分だったら」と考えることができるようになってきた。

添付資料:

○ラオスのことを学ぼう(ワークシート)

道徳	令和2年1月17日(金)3校時				
	1年4組 番				
	氏名()				
「ラオスについて学ぼう」					
1 はじめて知ったことや、大切なことはメモに残そう					
2 振り返り					
<table border="1" style="width: 100%;"><tr><td style="height: 20px;"></td></tr><tr><td style="height: 20px;"></td></tr><tr><td style="height: 20px;"></td></tr><tr><td style="height: 20px;"></td></tr></table>					

参考資料:

・中学校学習指導要領解説 特別活動編 (文部科学省)

・井上きみどりの日本とアジアの絆をたどる旅～ラオス・ベトナム編～戦争のあとに残るものラオスの不発弾 (JICA2017 年 3 月発行)

・動画 SDGs ピコ太郎 (9/1 <https://www.youtube.com/watch?v=H5l9RHeATl0>)

・動画 SDGs 目標 1 貧困ってなんだろう?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=LUO8IPsIPBA&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh> 9/2)

・動画 SDGs 目標 2 飢餓って?【アニメでわかる! SDGs】

(https://www.youtube.com/watch?v=-tpF6z1QUQ0&feature=emb_rel_pause 9/2)

・動画 SDGs目標3 健康と福祉ってなに?【アニメでわかる! SDGs】(<https://www.youtube.com/watch?v=drce2K2oyhc> 9/2)

・動画 SDGs目標4 質の高い教育をみんなに?【アニメでわかる! SDGs】(<https://www.youtube.com/watch?v=YONd1cPQSi4> 9/2)

・動画 SDGs目標5 ジェンダー平等ってなに?【アニメでわかる! SDGs】

(https://www.youtube.com/watch?v=vJLeOV1_3sw&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=5 9/2)

・動画 SDGs目標6 安全な水とトイレってなに?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=rB2-qFXfhA&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=6> 9/2)

・動画 SDGs目標7 クリーンエネルギーって何?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=TykbjS2fnqI&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=7> 9/2)

・動画 SDGs目標8 働きがいと経済成長って何?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=I4DPMHFicBs&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=8> 9/2)

・動画 SDGs目標9 強靱(レジエントナ)なインフラって何?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=bzoCic3lxD0&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=9> 9/2)

・動画 SDGs目標10 不平等って何?【アニメでわかる! SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=pVKf6pa9LiQ&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=10> 9/2)

・動画 SDGs目標 11 住み続けられるまちって何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=fhmi0B8cvyM&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=11> 9/2)

・動画 SDGs目標 12 つくる責任って何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.bing.com/videos/search?q=sdzs%e3%80%80JICA&&view=detail&mid=DFDA3635084248F95A81DFDA3635084248F95A81&&FORM=VRD GAR&ru=%2Fvideos%2Fsearch%3Fq%3Dsdzs%25e3%2580%2580JICA%26FORM%3DHDRSC3> 9/2)

・動画 SDGs目標 13 気候変動って何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=fhmi0B8cvyM&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=11> 9/2)

・動画 SDGs目標 14 海の豊かさって何？【アニメでわかる！SDGs】

(https://www.youtube.com/watch?v=pB_6qf3OZMM&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=14 9/2)

・動画 SDGs目標 15 陸の豊かさって何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=6C7tgiYYwX4&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=15> 9/2)

・動画 SDGs目標 16 公正って何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=0emmQsgoUiA&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=16> 9/2)

・動画 SDGs目標 17 パートナースhipって何？【アニメでわかる！SDGs】

(<https://www.youtube.com/watch?v=FwIIDhkzW5w&list=PLQK0pRSh9-dU35U30UzX65sc79SyGmfmh&index=17> 9/2)

・動画 (地雷編)(COPE VISITOR CENTRE)

・サイト(一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン)

私とあなたの幸せな未来へ

氏名／武野 麻衣子 学校名／那覇市立鏡原中学校

■ 担当教科／家庭科 ■ 実践教科／家庭科・道徳・学活・総合 ■ 時間数／8時間

■ 対象学年／家庭科：全学年 618 人 道徳・学活・総合：第 3 学年 41 名

【実施概要】

【1】	単元目標	
	私とあなた(世界の人々)の幸せな未来へ向けて、知ることの大事さを理解し、大切にしたいこと、変わらなければならないことを考え、自分にできる 1 歩を踏み出す。	
【2】 単元の 評価規準	(ア)知識・技能	必要な情報を収集・整理・活用することができる。 多様な文化を知り、理解することができる。
	(イ)思考・判断・表現	国による様々な違いと差に気づき、自分もあなた(世界の人々)も幸せな未来を想像し生活を工夫できる。
	(ウ)主体的に学習に取り組む態度	他国に興味を持ち、異文化を理解しようとする姿勢がある。
【3】 単元設定 の理由	【課題設定の理由】 中学校は強い自我の芽生えと他者との“違い”が大変気になる時期である。この心身が大きな成長をする時期に、違いを恐れずに、自分も他者も認めて共生していく力を身に付けることは、これから生徒達が生きていくグローバルな社会に不可欠であると考え。異国の誰かのことを想像し触れることで、自分の幸せに気づき大切にすると同時に、相手の幸せも大切にできるようになってほしいという願いを込めて、本テーマを設定した。 (1)生徒観 本校は小中連携の取り組みをしており、他教科・他校種と連携して授業づくりを進めている。連携した取り組みの成果もあり、全体的に学習意欲がとて高く、粘り強く諦めずに問題解決に挑む生徒が多い。学習規律も整っており、静かに話を聞く態度が身についている。授業に集中できない生徒が各クラスに数名いるが、授業に参加できるように他の生徒がサポートしている様子が見られる。 (2)教材観 家庭科では主体的な学びを通して、生徒達に学び生活との繋がりを実感できる授業づくりを心がけている。物もサービスも豊かな日本にとって、環境への影響を配慮した生活は、SDGs のゴールに向けて大きな責任を負っていると言える。SDGs のゴールを目指すことは、実は自分の幸せにも繋がっていることを、授業を通して生徒達に感じてもらいたい。そして他教科とも連携・連動し、私とあなた(世界の人々)の幸せな未来へ向けて、自分にできる 1 歩を踏み出す力を身に付けさせたい。 (3)指導観 指導にあたっては、身近な事例を資料に取り入れ、興味・関心を持たせるようにする。また、考えること・書くことでつまづいている生徒がいた場合は、キーワードをあげてポイントを絞った考え方の助言をし、自分の考えをまとめる手立てをする。発表や話し合いの際は、異なる考えを尊重し、他に学ぶ姿勢を身に付けさせる。さらに、SDGs の視点も取り入れ、自分の行動が SDGs のゴールに繋がっていることを感じられるようにする。	

【4】展開計画(全 8 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	(家庭科:全クラス) テーマ 麻衣子先生が見たラオス。SDGs って何？ ねらい SDGs がなぜ必要か考える。	◆教師海外研修の学びとラオスについての簡単な紹介 ◆持続可能な社会とは何かを考え、SDGs について理解する。	・パワーポイント ・映像 ユニセフホームページ 世界に広めよう「持続可能な開発目標」
2	(家庭科:3 年 5 クラス) テーマ ラオスの“もの”を使ってラオスを紹介してみよう！ ねらい ラオスの“もの”から、生活や文化・歴史を想像する。	<ものランゲージ> ◆世界地図からラオスの場所を確認 ◆ラオスで入手したものとだけ伝え、ヒントなしで想像してみる ◆ヒントを与えてさらに考える。 ◆グループで発表 ◆答え合わせと補足説明 ◆本時の学びが SDGs のどのゴールに繋がるか考える。	・写真(教師海外研修) ・ワークシート ・現物(カオニャオ容器、ケーン、織物、紙幣、セパタクロボール、地雷被害を表したぬいぐるみ等)
3	(道徳:3 年 1 クラス) テーマ 世界の食卓をのぞいて違いを知ろう！ ねらい 食から見える国による様々な違いを知り、国による格差に気づき、日本のゴミの問題を考える。 「Cー(18)国際理解、国際貢献」	◆「地球の食卓」より、数十カ国の食卓の写真を見て、ホームステイするならどの国・家族としたいか考えよう。 ◆1 枚の写真を選び、その家族になりきって家族の食卓を紹介してみよう。 ◆写真の家族が住んでいる国はどこ？1 週間分の食費はいくら？ ◆日本の家族の食卓の写真から、出てくるゴミの種類を考えよう。 ◆ラオスの食卓を見てみよう！ ◆本時の学びが SDGs のどのゴールに繋がるか考えて○で囲む。	・写真(書籍:「地球の食卓」(TOTO 出版)、教師海外研修) ・2019 年度国際理解教育・開発教育指導者養成講座初級編第 1 回目ワークショップ①「地球の食卓」資料 ・ワークシート
4.5	(学活・総合:3 年 1 クラス) テーマ ラオス語で自己紹介をしてみよう！ ねらい ラオス語での自己紹介を覚え、異文化コミュニケーションに役立てよう！	◆ラオス語の「あいいうえお対応表」を使い自分の名前をラオ語で書く (※現地の青年海外協力隊の中村隊員に添削して頂く) ◆ラオス語の自己紹介文を覚え、一人一人の自己紹介動画を撮影する (※動画を交流先のポリカムサイ子ども文化センターの中村隊員へ送付) ◆本時の学びが SDGs のどのゴールに繋	・JICA 地球ひろばの資料「ラオス語で自己紹介」 ・書籍:「旅の指さし会話帳」(情報センター出版局) ・書籍:「すぐに話せるラオス語会話」(小此木國満 著) ・ワークシート

		がるか考えて○で囲む。	・デジタルカメラ
6 公開授業 授業参観	(道徳:3年1クラス) テーマ ラオスの子ども達と交流しよう！ ねらい ラオスの子ども達との交流を通して、遠い異国を身近に感じ、異文化理解を深める。 「Cー(18)国際理解、国際貢献」  生徒が空手を披露！	《現地交流・協力機関》 ラオス・ポリカムサイ子ども文化センター(CCC:Children's Culture Center) 《現地協力者》 JICA 青年海外協力隊 中村圭介隊員 ◆担任と学校の簡単な紹介 ◆中村隊員とCCCの紹介 ◆ラオスの子ども達の自己紹介(5名) ◆鏡原中の生徒自己紹介(5名) ◆鏡原中の芸の披露 ①ダンス ②リフティング ③空手 ④エイサー ◆ラオスの子ども達からの質問(3名) ◆鏡原中の生徒からの質問(3名) ◆お礼の挨拶 ◆本時の学びがSDGsのどのゴールに繋がるか考える。	・電子黒板 ・iPad ・ワイヤレスマイク ・Zoom(テレビ電話アプリ)
7-8 本時 授業参観	(家庭科:1年6クラス) テーマ食品ロス(フードロス)を減らすと得られる効果を具体的に説明しよう！ ねらい食品ロスを減らすことが自分の健康を保つと同時に、SDGsのゴールにつながることを知る。		
【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (20分)	●前時の振り返り ●課題提示 メインの問い：食品ロス(フードロス)を減らすと得られる効果を具体的に説明しよう！		・家庭科教科書
	●キーワードを教科書を使って説明する。 ①残飯、②食糧自給率 ③フードマイレージ ④家庭から出るごみ ●メインの問いについて自分の考えをまとめる(はじめの考え)	書けない生徒はキーワードから一つ選び考えさせる。	・ワークシート
展開 (70分)	●エキスパート活動 エキスパートAの課題 「長寿の県沖縄を取り戻すために必要なことは何だろう？」 エキスパートBの課題 「なぜフードマイレージを減らさないといけない？」	資料について理解し自分の考えを話し合わせる	・ワークシート 資料A 資料B

	●ジグソー活動 ・エキスパートで話し合った内容をお互いに発表する。 ・各エキスパート活動の考えを統合してメインの問いを解決していく。 ・クロストークに向けて班で意見をまとめる。 ●クロストーク活動 ・各班の考えを全体で意見交流し、考えを見直す。 ●メインの問いに対し最終的な自分の考えを記入する。	自分の考えを自分の言葉で伝えられる支持的風土を作る 他の班の考えに触れ理解を深める	ワークシート
まとめ (10分)	●発展活動 世界の飢餓の現状とラオスの飢餓状態を知る。 ・ラオスと日本の穀物の食料自給率、ラオスの栄養状態改善のための昆虫食について話し、このままで良いのか考えさせる。 ・食品ロスの削減が SDGs のどのゴールに関連するかを考え○で囲む。 ・調理実習(エコクッキング)に繋げる。	学んだことを生かして実践できるようにする。	映像(教師海外研修時撮影)

【6】本時の振り返り

- 導入でキーワードを説明し、[はじめの考え]が書けない生徒へそのキーワードの中から一つ選び考えるように助言するとほとんどの生徒が書けていた。
- 自分達のクラスの給食残量調査の結果に興味を持つ生徒が多く、実際の自分達の食生活と食品ロスを繋げて考えさせることができた。
- 教師が狙う「地産地消」のキーワードが生徒から出て、はじめとおわりの考えで発展が見えた。
- 教師の予想を超えた、「災害が減る」「未来の食がなくならずにすむ」などの考えが出た。
- 教師の助言がないと考えをまとめられないグループが多かった。自分達で気づきまとめられるように、資料の精選と工夫が必要だと感じた。
- 沖縄県の「長寿」を取り戻すことと食品ロスが結びつかない生徒がおり、資料の精選が必要である。
- 郷土料理の良さに繋がる考えが少なかったため、前時の繋がりから系統立てて単元計画を見直す。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

SDGs のゴールと自分の生活の繋がりを感ずることができた

【はじめの考え】

食品ロス（フードロス）を減らすと得られる効果を具体的に説明しよう！

【はじめの考え】メインの問いについて、今のあなたの考えを書きましょう！

まず、商品が安くなるので、国がうまい。たり、また、他の国へのしんがてで、食料自給率もあがる。

～エキスパートABの説明を聞いて、最終的な考え～

【終わりの考え】メインの問いについて、今のあなたの考えを書きましょう！

沖縄の人は昔、この食料が入り、マコノク、地元のもので食べていると、健康で、また、フードロスが減るけど、地球温暖化が進む、なので、地産地消が大切

【はじめの考え】

食品ロス（フードロス）を減らすと得られる効果を具体的に説明しよう！

【はじめの考え】メインの問いについて、今のあなたの考えを書きましょう！

無茶に食べ物を減らす

地球温暖化を減らす

食料自給率を上げるために、

～エキスパートABの説明を聞いて、最終的な考えを書きましょう～

【終わりの考え】メインの問いについて、今のあなたの考えを書きましょう！

地球温暖化を減らす

食料自給率を上げるために、

また、食料自給率を上げるために、

考えの広がりや地産地消の言葉の出現

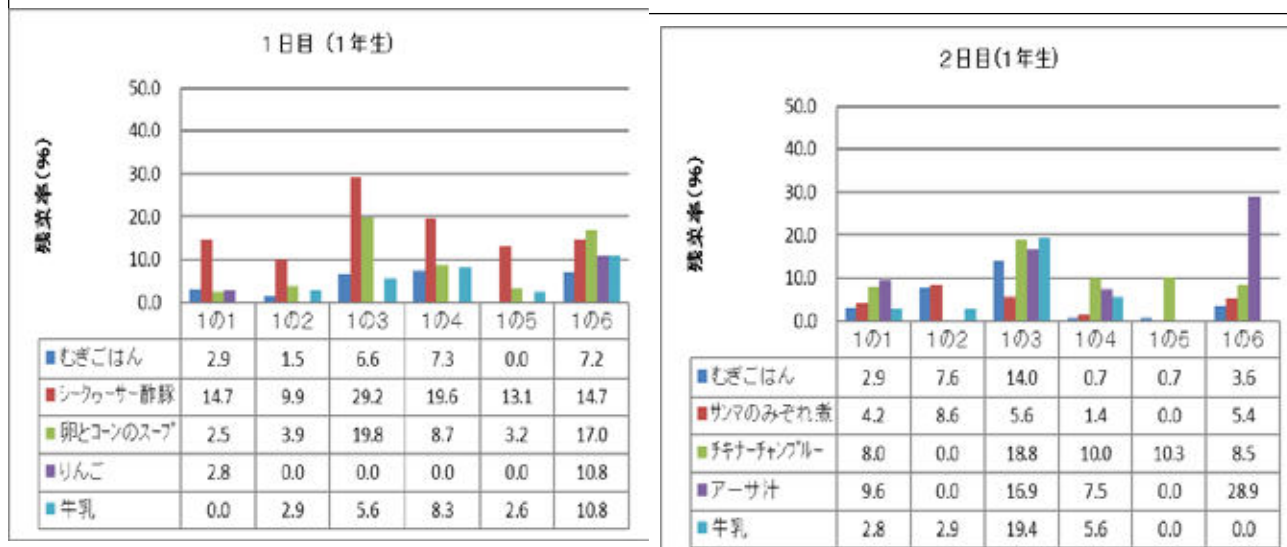
教師の予想を超えた考え

【8】自己評価

(1) 苦労した点	・自分達が有り難く恵まれた環境で生活していることは理解しているが、SDGs の課題を自分ごととして考えることが難しい。 ・節水やフードロスなどの自分の生活に直接関わってくる耳の痛い話になると、途端になかなか行動に結びつかない。 ・生徒の動きがある内容だと特に 1 単位時間におさめることが難しかった。 ・ただ“楽しい！”で終始してしまい、ねらいに向かえなかった。
(2) 改善点	・考えさせたいこと、身に付けさせたい力、具体的な行動変容の焦点を絞る。 ・多くを求めないこと。生徒達にこうなってほしいという思いは大事だが、授業内だけで評価をせず、長い期間と広い視野で観察し、少しでも変化が見とれた時、授業の成果が現れたと捉えるようにする。
(3) 成果が出た点	・教師海外研修時に撮影した画像を活用して導入で紹介したことで、興味・関心をひくことができ、その後の学習に向けて良い流れが作れた。 ・一番親しみやすい SDGs のゴール 17「パートナーシップ」の視点から見ると、“自分と違う”ことを否定し攻撃することが減り、“違いを楽しみ”さらに“共通点を見つけて喜ぶ”雰囲気が感じられた。 ・授業参観の日に検証授業を実施し、保護者にも生徒達の変化を見てもらえ、激励とアドバイスの言葉も頂けた。
(4) 備考 (授業者による自由記述)	はじめは授業に全く興味がなく「何故こんなことをやるの?」と言っていた生徒も、次第に自ら参加して他の生徒と協力する姿勢が見られた。ラオスの子ども文化センターの子ども達との交流では、言葉は分からないけど一所懸命伝えようとする相手の話を、一言も聞き漏らさないように集中して真剣に聞いている生徒達の姿はとても感動的だった。単元を通して世界の情報や世界の人々に触れることで、自分達と同じように世界の人々の生活や歴史・文化なども大切にしなければならないこと、未来の幸せについて考えさせることができた。

添付資料:

本時で使用した資料 A の一部抜粋（本校給食センター発行「ぱくぱく通信」より残量調査結果）



エキスパート B 資料

課題②：なぜフードマイレージを減らさないといけない？

食べ物が届くまでの距離を「フードマイレージ」といい、フードマイレージの値が高いほど、食品の輸送に石油等の多くの資源を使っている。農林水産省によると、日本で消費する小麦の約 88% をアメリカやカナダなどから輸入し国内産はたったの約 12%。日本の食料自給率は 39%！多くの食品を輸入に頼っているフードマイレージの高い日本。本当にこのままでいいの？下記のデータから課題について考えてみよう！



各国フード・マイレージの品目別比較

どの国がどのくらい二酸化炭素を出しているの？
一人当たりではどのくらいになるの？
世界の二酸化炭素排出量に占める主要国の排出割合と
各国一人当たり二酸化炭素の排出量(2016年)

このまま温暖化が進むとどうなる？2030 年頃には・・・(環境省・気象庁のレポートによると)・・・

- ・気温が 1.5℃上がると 1 億 1430 万人が極度の干ばつにおそわれる。
- ・農産物の 6%、植物の 8%、海洋動物の 4%の種で生息域が半減する。
- ・サンゴの生息域の 70～90%が減る。

参考資料：

- ・ピーター・メンツェル＋フェイス・ダルージオ著「地球の食卓」（TOTO 出版）
- ・亀田正人著「旅の指さし会話帳」（情報センター出版局）
- ・小此木國満著「すぐに話せるラオス語会話」（ジェーシー出版発行）
- ・ユニセフ動画教材「世界に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs)」I（マハラ・ユスフザイさん）】※日本語吹き替え <https://www.unicef.or.jp/sdgs/movie.html>（最終閲覧：2020 年 1 月 18 日）
- ・2019 年度国際理解教育・開発教育指導者養成講座初級編第 1 回目ワークショップ「地球の食卓」資料
- ・次世代の健康づくり副読本（教師用テキスト）（発行：沖縄県医師会）

あなたの色をおしえて

氏名／當銘 直樹 学校名／うるま市立あげな中学校

■担当教科／美術 ■時間数／5 時間 ■対象学年／第 2 学年 ■人数／40 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標		
(1)造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。 (2)日本の美術や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通した国際理解を深め、創造活動への関心を高めること。		
【2】 単元の 評価規準	評価の観点	題材の評価規準
	(ア) 関心・意欲・態度	主体的に彩色活動や交流活動に取り組んでいる。
	(イ) 発想や表現の能力	自分のイメージを大切に、作品を表現することができる。
	(ウ) 創造的な技能	用具を適切に扱い、効果的な彩色を行うことができる。
	(エ) 鑑賞の能力	自分なりの視点で、作品の良さを捉えることができる。
【3】 単元設定の理由	グローバル化の進展や高度情報化、少子高齢化等、社会はより複雑で予測困難な状態へと変貌し、学校教育には新しい時代に必要な資質・能力が求められてくる。 新学習指導要領美術(H29 年3月告示)においては「表現および鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成すること」と目標が示されている。 これまでの美術指導においても、創造することの楽しさを感じるとともにその充実を図ってきた。しかし、感性や想像力等を働かせて思考・判断し、表現したり鑑賞したりする等の資質・能力を相互に関連させながら育成することについては不十分であったと考える。 これらの課題の解消として、表現や鑑賞の中に対話的な交流学习を取り入れた指導を行うことで自己理解および他者理解を深める必要があると考える。それに伴って表現の多様性の理解へ繋げることができるであろうと考え本題材を設定した。 ＜児童/生徒観＞ 美術の学習を展開していく中で、意欲的に美術の学習に取り組む姿勢に好感が持てる。また、鑑賞や表現における美術の基礎基本の技能は定着している。しかし、これら基本的技能を活用させた題材、感性や発想力を生かして表現する創造活動においては、発想する活	

	動に戸惑う場面が多く見られる。生徒のつぶやきからも「自信がない」「周りの人の目が気になる」「他の人の作品と比べると不安になる」「自分の作品の良さが分からない」等といった表現に対する自己肯定感の低さや、表現することへの不安を感じている生徒も多い。 <教材観> 本題材は、「嬉しい(楽しい)」「悲しい」「怒り」といった感情(喜怒哀楽)を自由に色で表現し、それを互いに鑑賞しながら、自己理解や他者理解を深めさせる。さらに諸外国(ラオス)の生徒の作品鑑賞を通して相違点と共通点に気づき国際理解への関心を高める教材である。 <指導観> 本題材のねらいを通して、鑑賞学習を中心に自己理解や他者理解を促していくことで、表現における自己肯定感を育みたいと考えている。そのために、自分の作品をグループ同士で鑑賞し合い、感想を記入していくことで、自分の表現の良さに気づかせたいと考える。また、今回はラオスの生徒作品の鑑賞も通して、表現の違いや共通点を見つけながら、表現の多様性に気づかせて、国際理解を深めていきたいと考える。
--	---

【4】展開計画(全5時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	「あなたの色をおしえて」 ねらい ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。 ・日本の美術や文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通した国際理解を深め、創造活動への関心を高めること。	【鑑賞】 ・「嬉しい(楽しい)」「悲しい」「怒り」などの感情(喜怒哀楽)を自由に色で表現し、それを互いに鑑賞しながら自己理解や他者理解を深める。さらにラオスの生徒の作品鑑賞を通して相違点と共通点に気づき、国際理解への関心を高める。	・ワークシート ・色鉛筆、タイマー ・ラオス生徒作品
2	「ラオスクイズ」 ねらい ・日本とラオスの美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通して国際理解(SDGsを含む)を深めること。	【鑑賞】 ・ラオスの美術や文化をクイズ形式(2択)で出題し、日本(沖縄)との共通点や違いに気づき国際理解への関心を深める。	・パワーポイント ・「A」「B」ボード ・ふりかえり用紙



3	「ラオス(モン族の刺繍)からデザインしよう!」	【表現:下図制作】 ・モン族の刺繍を紹介。刺繍の意味や目的、デザインの工夫について理解を深める。そして、自分なりの表現(日本や沖縄、地域や学校・学級、自分の生活や未来・人生など)につなげる。	・モン族の刺繍(タペストリー) ・ワークシート ・色鉛筆 ・ネームペン ・はさみ ・のり
4	ねらい ・伝える目的を基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果などとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。	【表現:彩色活動】 ・完成した図に、おもにネームペンや色鉛筆を用いて彩色を行う。その際、作品のバランスを考え補色関係を意識しながら色彩表現を行うことで、表現の幅を広げる。 ・完成した作品を一つにまとめて掲示。 <共通事項> ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。 ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 ・造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。	・完成図
5		【鑑賞】 ・完成した作品を一つにまとめて掲示。自分の作品や他クラスの作品などを鑑賞し感想を記入。 ・グループで感想の発表を行いシェアリングを行う。	・ふりかえりシート

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (15分)	・本時の約束事と本時の学習、めあての確認を行う。 ⇒「聴くこと」「たくさんかくこと」 本時の学習 ⇒「あなたの色をおしえて」 めあて さまざまな「気持ち」に、あなたの『センス』で色を塗りましょう！ めあて さまざまな「気持ち」に、 あなたの『センス』で 色を塗りましょう！ ※正解はありません※ ◎ワークシートの配布 ⇒☆の項目を10分間で「うれしい」「かなしい」「わじわじー」「ふつう」を色鉛筆で彩色。	・本時の約束事の提示。 今日の約束事 1 『聴く』 きく：積極的に耳をかたむけること。 ・「正解は無い」ことを伝える。 ⇒怖がらずに表現させる。 ・自由に彩色を行うように指示する。 ・終わったら、他の気持ちにも彩色を行わせる。	・めあては青色で表示。 ・ワークシート☆ 
展開 (25分)	【交流Ⅰ：15分】 ・グループの形態(5名以内)になり、グループの仲間同士で感想をワークシート①に記入していく。 ⇒1人3分計時。 交 流 各グループの仲間同士で 感想を記入していこう。 ※前向きな意見を記入しよう！※ 【交流Ⅱ：10分】 ・各グループに「ラオスの生徒作品(コピー)」であることを教えずに配布し、グループで意見を交わしながら感想をワークシート②に記入。 ☆あなたの色を思い出して♪ 	・彩色はできた分だけでよいとする。 ・感想を書くポイントの指示。 ポイント ○自分の作品との違い。 ○面白い!と思ったところ。 ○発見や気づいたところ。 ○不思議に思ったところ。 ○..... ・生徒が安心して自分の考えを発表できるように再度声掛け「間違いはない」ことを意識させる。 ・作品の「良いところ」を中心に前向きな意見を書かせる。 ・タイマーで計時する ・机間指導で交流学习で記録のサポートを行う。	・ワークシート①② 

まとめ (10分)	・配布したコピーが誰の作品か考えさせる。 ⇒質問例:Q 男性?女性?→Q 中学生?→Q 沖縄の人?→Q 日本人?→... ・ラオスの国の紹介。 ・自分達の作品との共通点と相違点について考えさせる。 【発問1】 ◎「自分と違うということは悪いことですか?」 ⇒ほとんどの生徒が「いいえ」の回答が予想される。 ・「人それぞれに違うこと」⇒『多様性』 ・「それぞれの違いを認めること」⇒『寛容』 【発問2】 ◎「お互いの違いを認められないとどんなことが起きますか?」⇒回答例:いじめ、ケンカ...戦争など ↓ 【教師の思い】 「自分と違うということを楽しめる人、認めあえる人でいてください。」 本時のまとめとふりかえり ・本時のまとめを感想にまとめて③に記入させて、ふりかえりを行い提出。 まとめ と ふりかえり 自分の作品 と 仲間の感想、 ②の作品を見てなど、 あなたの考えをまとめて 感想を書こう! ・片付け。 ・次時の確認⇒ラオスの紹介(パワーポイント)	・少しずつヒントを与えて外国人の作品であることを気づかせる。 ・ラオスの国については、次の学習で詳しく学習することを確認する。 ・必要に応じて指名して発表をさせる。(共通点と相違点) ・共通点は基本的に嬉しいことを確認。 ・生徒によっては金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」の詩の一節「みんなちがってみんないい」をつぶやくことが多い。 ・時間が無い場合は宿題にしても良い。 ・時間が余れば③を発表もしくは教師が読みあげる。 ・みんなで協力して片付けを指示する。	・ワークシート③
-----------------------------	---	--	---

SDGsの視点(どのゴールにあわせて?)



「人それぞれに違うこと」「それぞれの違いを認めること」の視点から。

【授業実践の様子】(授業の様子写真)

①板書



① 板書の様子



彩色活動の場面



交流活動の場面



適応指導教室での学習の場面

本題材は、本校2学年を対象に実施。
不登校生徒が通う「適応指導教室」

【6】本時の振り返り

鑑賞活動の導入に彩色活動を取り入れ、スムーズに交流活動を行うことで、自己理解や他者理解につなげることができた。さらに、ラオスの生徒作品も取り入れたことで、授業終盤に生徒の興味関心を高めることができた。しかし、まとめやふりかえりの場面では、十分に行えない生徒もいたことから宿題にしてもよいのではと感じた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

今日の授業で、自分と同じバレーボールの国の人やラオスの国の人たちなど、人それぞれ表現のしかたが
ちがくて個性があっていいなって思いました。また、ちょっと様におまけたしただけでリアルに見えたりあま
りいぬりおもしろいやりやイメージで描いていたりとかや、たまたまこうなることもあが、で色々勉強になり
ました。また、ラオスの人は考え方がすごいなって思いました。だ、て、おこっているやつとか、つが日本人とな
んかちがうほうこうにいてるような気がしたからです。

たにストリークした。お表現の色は、初人の個性や色々とをわかったことができた。毎日の生活でも、人との違いや自分
と同じように理解しあうことが思いました。二日授業楽しかったです。

私もぜんぜん万が、下巻のわ、てんが、いました。そう思うと、みんな有る、感じ方、ちが
うんだね、みんな万が、てんが、い、て、おぼや、思、いの思、い、た。お、い、ぞ、す、め

【8】自己評価

1. 苦労した点	・授業づくりの中で、自己理解、他者理解、国際理解から、どのように自己肯定感を高める内容にしていくなか苦労した。今後も改善が必要だと感じた。 ・ワークシートの構成については、発問が多くなったり、思考の流れがわかりにくかったり、授業ごとに修正を加えながらまとめた。
2. 改善点	・生徒自身への SDGs のアプローチが弱かった。 ・学習状況に応じて、まとめやふりかえりは宿題にしてもよい。
3. 成果が出た点	・鑑賞活動の導入に彩色活動を取り入れたことでスムーズに交流活動を行うことができた。 ・交流学习を通して自己理解や他者理解につなげることができた。 ・ラオスの生徒作品も取り入れたことで、授業終盤に生徒の興味関心を高めることができた。

添付資料:



参考資料:

- ・文部科学省 2018 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 美術編』 日本文教出版株式会社
- ・きだに やすのり 2017 『ずこうことばでかんがえる』 エイチアンドエスカンパニー
- ・日本教材システム編集部 2017 『中学校学習指導要領 新旧比較対照表』 教育出版
- ・有賀三夏 2015 『本当はすごい“自分”に気付く 女子大生に超人気の美術の授業』 藝術学舎
- ・一般社団法人 Think the Earth 2018 『未来を変える目標 SDGs アイディアブック』 紀伊國屋書店
- ・国際連合広報センター 2030アジェンダ https://www.un.org/jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/ (2020年1月最終アクセス)

ラオスの人たちと、私たち

～ラオスのことを知り、自分のことを見つめよう～

氏名／小畑 千雅 学校名／熊本県御船町立高木小学校

■ 担当教科／小学校全教科 ■ 実践教科／外国語活動 ■ 時間数／4時間 ■ 対象学年／第1学年 ■ 人数／18人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標		
・外国文化に興味関心をもち、異文化理解を深めるとともに、他者意識を高める。 ・世界の課題を知るとともに、自分の課題と結び付けて課題を解決する力を高める。		
【2】 単元の評価 基準	(ア)知識・技能	日本とラオスの文化の違いに気付いている。
	(イ)思考・判断・表現	評価なし
	(ウ)主体的に取り組む態度	ラオスの課題から、自分の課題に立ち返り、課題を解決しようとしている。
【3】 単元設定の理由	<児童観> 本学級児童は、年度初めから、小学校に入学して初めての英語の授業に高い関心を示している。しかし、「ALTに進んで話しかけていますか。」「外国へ行ってみたいですか。」の質問に対して、「いいえ」と答える児童がそれぞれ12%おり、数名の児童が英語で話すことや外国文化等に抵抗感を抱いていることが分かった(2019年5月にアンケート実施)。英語の学習の導入期である第1学年で、全ての児童が、楽しく、積極的に学習に取り組むことのできる授業が必要であると感じた。そこで、「英語」や「異文化」に親しみながら理解を深め、一人でも多くの児童が楽しく取り組むことができる学習づくりを目指したいと考えた。 <教材観> 本単元では、ラオスのことを知り、日本と異なる文化に気付くことにより、異文化理解を深めることができる。また、ラオスの様子を知り、自分たちの生活を振り返ることで、より良い生活をつくろうとする姿勢を育むことにも繋がる。 <指導観> SDGsの視点を取り入れて授業を組み立てることで、世界の課題を知り、学校での学びを現実社会と結び付けることができる。学びが社会課題に繋がることで、地域、社会、そして、世界に目を向け、異文化理解の一助となると考える。	

【4】展開計画(全4時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容・留意点	使用教材
1	「ラオスってこんな国！」 ねらい(SDGs4.「質の高い教育をみんなに」の視点から)  質の高い教育のために、世界に目を向けることが大きな一歩になると考えた。これを実現するためには、まずは、相手のことや国、地域のことを「知る」ことが重要であると考え、今回は、ラオスという国について「知る」授業を展開した。 本時の目標 ゲームやクイズを通してラオスについて知り、異文化への興味関心を高める。	1 地球儀を使って日本の場所を知った後、ラオスの位置を知る。 ○自国と他国を視覚的に認識させた。 2 ラオスの概要を知る。 ○ラオスの食べ物や土地の様子等を絵や写真で紹介した。 3 ラオスクイズをする。 ○ラオスで使われている実物を提示しながら、この道具が何に使われている物が予想するクイズをし、楽しんでラオスの文化について知ることができるようにした。	写真(托鉢の様子、食べ物、家など) シン(女性の民族衣装)、竹細工のもの(もち米入れ等)
2	「食べ物にありがとう」 ねらい(SDGs2.「飢餓をゼロに」の視点から)  日本の食料自給率は約40%と先進国の中でも最低水準で、食べ物の多くを海外からの輸入に頼っている。一方、まだ食べることでできる食料を年間約650万tも捨てている。世界には食べ物を満足に食べることでできずに苦しんでいる人がいるにもかかわらず、食料ロスが多い実情を伝えた。 本時の目標 食べ物のありがたさに気づき、食べ残しをしないことなど、給食や家庭での食事等、身近な食事の場で自分ができることを考える。	1 学級の残飯の写真を提示し、日頃の給食の様子を想起する。 ○児童にとって身近な給食について想起させることで、自分事として捉えさせる。 2 世界の様子を知る。 ○写真を見せながら、ラオスでは、貧しくて食べ物が買えず、コンデンスミルクだけで育つ赤ちゃんもいることに触れた。 3 日本の様子を知る。 ○日本では、外国から食べ物をもらっているにも関わらず、たくさんの食べ物を捨ててしまっていることを話した。 4 自分達にできることを考える。	写真(学級の給食時の残飯の様子、ラオスの店頭に並ぶコンデンスミルクの缶詰、等)、日本の食料ロスのグラフ
3 本時	「みんなと仲良くするために」後述 	後述	後述

4	「パラリンピックってなあに？」 ねらい (SDGs3.「全ての人に健康と福祉を」の視点から) 世界には、貧しさから健康的な生活を送ることができなかつたり、戦争による身体的被害でこれまでと違う生活になってしまったりする人がある。今回は、ラオスで活躍する選手に焦点をあて、身体が不自由になっても、目標に向かって輝いている人があることを紹介した。 本時の目標 パラリンピックや、それに向かって頑張っている人について知り、誰もが楽しめるスポーツを体験する。	1 クイズをする。 ○スプーンを取り出して、何でできているスプーンか予想させる。 2 スプーンの歴史を知る。 ○不発弾などの鉄くずを集めて作られていることを伝える。 3 パラリンピックについて知る。 ○ラオスでウェイトリフティングを頑張っている選手や、不発弾の被害にあっている選手や、不発弾の被害にあっている選手を紹介する。 4 卓球バレーを楽しむ。 ○ラオスで楽しまれている卓球バレーを実際に体験させた。	写真(スプーン、ゴールボール選手、ウェイトリフティング選手)、卓球ボール等
---	--	---	--

【5】本時の展開

「みんなと仲良くするために」

ねらい 世の中を見渡すと、ケンカやいじめ、犯罪、戦争、テロなど、家庭、学校、社会、国家の間で、暴力的な出来事がある。暴力は時には命まで奪ってしまうこともある。暴力をなくして物事を解決し、平和に暮らすことの大切さを、学級の課題に立ち返って考えることを目指した。

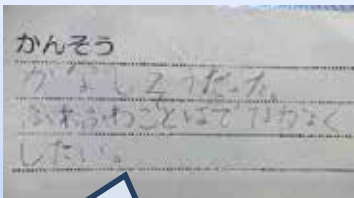
本時の目標 世界の様子を知り、平和の大切さに気付き、身近なこととして、どうすれば友達と仲良く過ごすことができるかを考える。



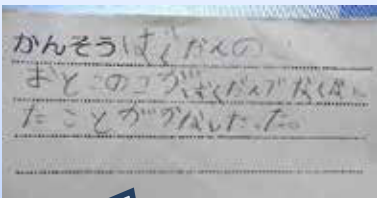
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1 写真の夫婦の表情を読み取る。 	○不発弾で子供を亡くしてしまった夫婦の写真を提示した。 ・「泣いてるよ。」 ・「なんで泣いてるんだろう。」 ・「子供の写真を持ってるよ。」 ・「悲しい事があったのかな。」	不発弾の被害で息子を亡くした夫婦の写真
展開 (20分)	2 戦争について、そして、ラオスの現状について知る。 	○ラオスに投下されたクラスター爆弾について話す。 ○伝える時の言葉や提示する資料は、衝撃が強くなりすぎないように配慮した。 ・「こんなにたくさん入ってるんだ…。」 ・「爆弾の一つは小さいのに、こわいんだね。」	クラスター爆弾の写真

ラオスは多くのクラスター爆弾により被害を被り、現在でも不発弾による被害があることを伝えた。

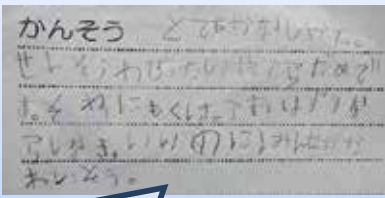
	3 導入で提示した夫婦の話を聞く。 亡くなってしまった男の子   地面に埋まっている不発弾	○夫婦の子供は、不発弾の残骸の鉄くずを集めていた時に、被害にあったことを伝えた。 ・「鉄くずを集めてなかったら亡くなっていなかったかも。」	写真
展開 (15分)	4 平和について考える、友達と仲良くするためにはどうすればよいかを考える。	○平和の大切さについて伝え、身近なこととして、友達と仲良くするためにはどうすればよいかを考えさせた。 ・「ルールを守ったら、ケンカしないと思うよ。」 ・「ふわふわ言葉が大事。」	
まとめ (5分)	5 振り返りをする。	○本時の振り返りをさせる。	感想用紙



かんそう
うしろをうたた
ふわふわ言葉で
仲良くしたい。



かんそうはくせん
まことのうたはくせん
たことかかんいた。



かんそう とても悲しかった。
戦争は絶対やったらだめです。
みんなかわいそう。

児童の感想

【6】本時の振り返り

第1学年の実態に合わせ、戦争や平和についてなど、やさしい言葉を選びながら、かつ、衝撃が強くなりすぎないように考慮した。導入では、写真を用いて、どのような表情かを読み取らせることで、「なぜこのような悲しそうな表情なのか」興味を引き出すことができた。展開部分では、平和について考える中で、まずは身近な自分の暮らす環境において、「友達と仲良くするために」どうすればよいかを考えさせた。児童は、「みんなで決めたルールを守ることが大事。」「ケンカしてしまっても、きちんと謝ることが大切。」等、活発に意見を出し合うことができた。

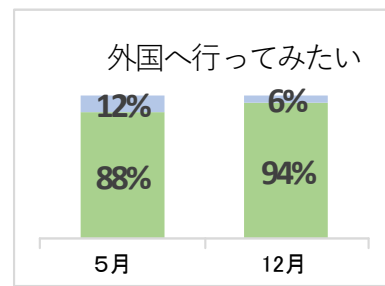
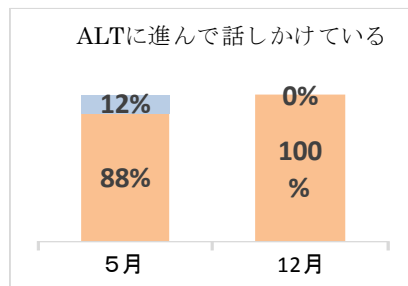
【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

○5月と12月に本学級でアンケートを実施し、次の様な結果であった。

(■ はい、 ■ いいえ)

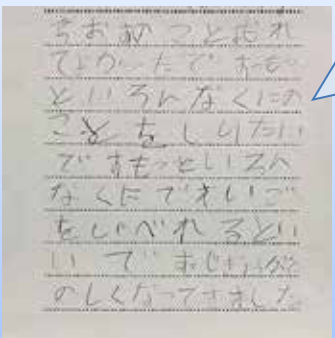
外国語や外国文化に対する抵抗が減り、親しみが高まったと考えられる。

○SDGs の項目をもとに、本時の授業のゴールを設定することで、ねらいを明らかにすることができた。また、世界の課題を知りながら、自分の身の回りのことに置き換えて考えさせることができた。



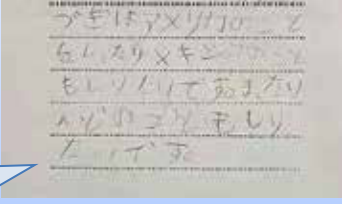
○実際に経験したことを話したり、写真を見せたり、外国から持ち帰った物を実際に提示することで、児童の興味関心を高めることができた。

○児童にとって、ラオスという今まで知らなかった国について知ること、他の国々に関しても興味の高まりがあった。



ラオスのことを知れてよかったです。もっといろんな国のことを知りたいです。もっといろんな国で英語をしゃべれるといいです。

次はアメリカのことを知ったり、メキシコのことも知りたいです。



児童の感想

【8】自己評価

1. 苦労した点	本学級が第1学年であるため、どこまでの内容を伝えるか、また、どのように伝えるかなど、情報の取捨選択が難しかった。
2. 改善点	少し言葉等が難しい場面や、伝えたいことを詰め込みすぎてしまうことがあった。時数を確保し、更に丁寧に取り組むと改善につながると感じた。
3. 成果が出た点	児童の外国や外国文化に対する興味関心の大きな高まりがみられるようになった。「ラオスに行ってみよう！」と話す児童も多くなった。

参考資料:

- 1) JICA 地球ひろば、『共につくる私たちの未来』、独立行政法人 国際協力機構、2019
- 2) 『COPE Visitor Centre SOUVENIR GUIDE』、COPE、2014

世界を知ろう、体験しよう。そして、世界に参加しよう！

氏名／川野 由加理 学校名／大分市立大在西小学校

■ 担当教科／全教科 ■ 実践教科／英語、道徳、総合的な学習の時間

■ 時間数／6時間 ■ 対象学年／第3学年 ■ 人数／38人

【実施概要】

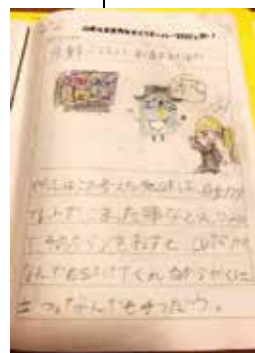
【1】単元のテーマ・目標：世界を知ろう、体験しよう。そして、世界に参加しよう！

- ・外国の文化や生活に興味を持ち、相違点を見つけることを通して、異文化を理解しようとする態度を育てる。
- ・世界の問題について知り、自分たちの生活を見直すとともに、今自分たちがどのように行動すべきかを考えることができる。

【2】 単元の評価 規準	(ア)知識・技能	外国の文化や生活に興味を持ち、相違点を見つけようとしている。
	(イ)思考・判断・表現	外国の文化や生活を知り、異文化を理解しようとしている。
	(ウ)主体的に取り組む 態度	自分たちの生活を見直すとともに、今自分たちがどのように行動すべきかを考えようとしている。
【3】 単元設定の 理由	<児童/生徒観> 本学級の児童38名は、3年生から始まった外国語活動、国語で学習したローマ字等を通して、英語の音声やアルファベットの文字に触れる機会を得ている。また、外国語活動の映像教材に対する反応や、ALT に積極的に話しかける姿から、異文化に対する興味は高いと言える。しかし、世界の様々な国の生活や文化に触れる機会は非常に少なく、テレビで得る情報が大半を占めている。 <教材観> ラオスの写真や映像、国際理解教育で使用される資料(「世界がもし100人の村だったら」、世界の子どもたちのストーリー)、SDGsの3つの教材を軸にして授業を展開する。本単元では、これらの3つの教材を、児童が世界を「知る」「体験する」世界に「参加する」ための手立てとして活用する。 <指導観> 本単元では、最後にSDGsの考えを知り、世界を救うためのスーパープロジェクトを考えさせた後、今自分たちができることを考える活動を設定する。そこで、まず、教師がラオスで購入したものやポストカードを使ってモノランゲージやフォトランゲージをする。 簡単なクイズを通してラオスについての知識を得てから、日本との相違点を考える。異文化について知り、理解を深めさせたい。その後「世界がもし100人の村だったら」のワークショップ、世界の子どもたちのストーリーから様々な問題について実際に体験したり、考えたりする活動を行う。これらの活動を通して、世界と自分たちのつながりを感じさせたい。つながりを実感させた後に最後の活動につなげる。最後の活動では、自分も世界の中の一人であるということを実感し、持続可能な社会の担い手としてできることを考えさせたい。	

【4】展開計画			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「ラオスってどこ？」 ラオスのものやポストカードからその背景を想像し、異文化を知る。	○ラオスのものに触れ、その用途や素材等を班で考える。 ○ラオスのポストカードを見て、うつっている物や人は何をしているか等を班で考える。 ○その後、全員に向けて発表する。 ○感想を書く。	・ラオスで購入したものやポストカード ・ワークシート 
2	「くらべてみよう、日本とラオス」 ラオスについて学び、日本との相違点を考え、異文化を理解する。	○教師からラオスについての話を聞く。 ○ワークシートに記述し、日本とラオスを比べる。 ○自分たちの住んでいる日本と、ラオスの同じところと違うところを考える。 ○感想を書く。	・パワーポイント ・ワークシート
3	「世界がもし100人の村だったら」 役割カードにより、世界の人々の立場を体験する。	○役割カードを持ち、「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを行う。 ○「世界がもし100人の村だったら」の読み聞かせを聞く。 ○心に残った文章に線をひく。	・役割カード(ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版) ・パワーポイント ・ワークシート
4	「世界の問題を知ろう」 ストーリーを聞き、世界には様々な問題があることに気付く。	○世界の子どものストーリーを聞く。(ウガンダ、日本) ○ストーリーを聞いた後の「わたしの気持ち」をワークシートから選び、思ったことを書く。	・持続可能な開発目標 アクティビティ集 ・ワークシート
5 本時	「世界をすくうスーパープロジェクト！」 世界の中の一人であるという自覚を持ち、様々な問題を解決する方法を考える。	○SDGsについて知る。 ○世界をすくうスーパープロジェクトを考える。	・SDGs説明資料 ・ワークシート
6	「みんなに伝えよう！今、私たちができること」 世界の様々な問題を自分事として考え、できることから行動しようとする。	○今、自分ができることを考える。 ○呼びかけ、もしくは宣言を紙に書く。 ○模造紙の目標にあたる部分にはっていく。 ○単元全体を通した感想を書く。	・掲示用 SDGs ロゴ入り模造紙 ・ワークシート 

【5】本時の展開			
ねらい：世界の中の一人であるという自覚を、SDGsの目標を知り、様々な問題を解決する方法を考えることによって、持つことができる。			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (15分)	（前時までに世界の様々な問題についてワークショップ等を通して、学習している。） ○SDGsについて知る。 ・世界にはまだまだたくさん問題があり、それを解決しようと目標をたてていることを学ぶ。	（事前に SDGsサイコロや磁石などを教室に置いておき、興味を持たせておく。） ・SDGsについて、経緯や各目標を伝える。 ・子どもにとって難しい言葉が多く、目標の量も多いので、視覚的にわかりやすいようICT教材を使用したり、資料を配布したりする。	プロジェクター SDGs子ども用サイト SDGs説明用資料
展開 (25分)	○世界をすくうスーパープロジェクトを考える。 ・17の目標の中から自分が解決したいと思うものを一つ選ぶ。 ・「〇〇の考える世界をすくうスーパープロジェクト」と題し、選んだ目標を解決するプロジェクトを自由に考える。	・SDGs説明用資料から、目標を選ばせる。 なかなか選べない児童には、自分の生活の中から考えやすいものを選ぶように伝える。 ・スーパープロジェクトを自由に書かせる。 実現不可能でもよいことを伝え、「こんなプロジェクトがあったらいいな」という発想を大事にする。 ・机間巡視を行い、支援が必要な児童には、オリジナルの発想を考えている児童のプロジェクトを簡単に紹介する。	ワークシート
まとめ (5分)	○自分の考えたプロジェクトをクラスに向けて、発表する。 ・お互いに感想を伝え合う。	・ペアで発表後、全体で発表させる。プロジェクターにうつし、視覚的にわかりやすくなるように配慮する。 ・発表後に、互いに感想を伝え合わせる。	プロジェクター



【授業実践の様子】(授業の様子写真)



【6】本時の振り返り

＜成果＞

- ・SDGsを学ぶことは難しいかと考えたが、ICT教材や説明用の資料を使用し、子ども向けに伝えたことで、目標等の理解において困りを抱える児童はいなかった。
- ・プロジェクトのタイトルを工夫したり、イラストと文で説明できるようなワークシートにしたりしたことで、意欲をもって取り組むことができていた。
- ・プロジェクトは実現できなくてもいいという前提をつかったことで、児童の自由な発想を引き出すことができた。

＜課題＞

- ・もう少し詳しく SDGsの各目標の背景にある問題等を学ぶ時間を作れば、さらに発想を広げることができたであろう。
- ・イラストの方に集中しすぎて、説明を書くまでの時間に個人差が出てしまった。はじめに説明を書かせる指示をしておけばよかった。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

(授業前)

授業前、児童に「世界の国のことを知っているか」と問うと、出てきたのはアメリカや韓国や中国、そして昨今大分でも行われたラグビーワールドカップに出場している国名が主であった。国名を知っているだけで、どんな言葉を話し、どんなものを食べているのかまで想像はしていなかった。日本で暮らしているこの生活を、他の国もしていることが当たり前だという感覚を持っているようであった。

(授業後)

単元の最後に今、自分ができることを宣言させ、感想を書かせた。

今、自分ができることについて考えたことで、「水をだしばなしにしない」「ご飯の食べ残しをへらす」など、普段の生活と直結した、自分にできることを考え、行動にうつそうとする姿が見られるようになった。また、世界の様々な問題を知ることでの自分たちの置かれている状況が決して当たり前ではないということに気づくことができた。日本には恵まれている、今の生活は幸せであるということを実感するようになった。

世界の問題について、同じ人間なのだからと自分事として考えることができるようになった。未来の自分や周りの人のために、今を大切に生きようとする気持ちも芽生え始めてきた。その意識が学級にも広がり、困っている友達に優しく声をかける姿、協力して学習に取り組む姿等に現れてきている。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	教師海外研修やそれに関わる研修に参加したことで、子どもたちに知ってほしいことや伝えたいこと、考えてほしいことがたくさん湧き出て、教材の選定に苦労した。その中でも SDGs を教材に選んだが、小学3年生の段階で世界の様々な問題について考えさせるのは難しいと感じる場面も多くあった。
2. 改善点	ラオスや、世界の様々な問題について少ししか学ぶことができなかったので、授業時数を確保し、もっとじっくり学ばせたり、自分で調べさせたりする活動があった方がよかった。そうすることで、自分事として考えていくことができたのではないかと思う。
3. 成果が出た点	単元を「知る」「体験する」「参加する」の流れに沿って計画したことで、最後の活動にスムーズにつなげることができた。世界には様々な国があり、今回は例としてラオスについて学び、その他にも世界の様々な問題について学んだことで、児童一人ひとりの世界に対する意識は変わり、視野が広がった。また、そこから持続可能な社会を創るために、普段の生活に即した自分にできることを考えることができた。

参考資料:

- ・「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら 第5版」2018 年 DEAR 開発教育協会
- ・先生・ファシリテーターのための持続可能な開発目標-SDGs-アクティビティ集
- ・国際連合広報センター(最終閲覧日:2019/12/17)

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/sdgs_icon/

- ・公益財団法人 日本ユニセフ協会(最終閲覧日:2019/12/19)

http://trans.hiragana.jp/ruby/https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/goal_child.html

水の大切さを知ろう

氏名／谷 沙織 学校名／熊本市立白山小学校

■担当教科／全教科 ■実践教科／総合的な学習の時間 ■時間数／10 時間 ■対象学年／第5 学年 ■人数／33 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：

単元名：「水俣に学ぼう」

- ・自ら課題を見つけ、多様な考え方をもとに判断し、行動し、解決していく力を育てる。
- ・課題解決していく過程で学び方やものの考え方を身につけ、自分の生活と結びつけて考えることができる力を育てる。

【2】

単元の評価
規準

(ア)知識・技能

切実感をもって調べ学習に取り組み、どう実践に取り組むか、話し合ったり、書いたりできる。

(イ)思考・判断・表現

調べたことを、読み手を意識して分かりやすく水俣新聞に書くことができる。

(ウ)主体的学習に取り組む態度

自己のこれまでの生き方を考え、進んで実生活の問題に取り組もうとする。

【3】

単元設定の
理由

【単元設定の理由】

熊本市は、水道水をほぼ100%地下水で賄う、世界でも稀な水の都市である。一方で、過去には同じ熊本県で、四大公害の一つである水俣病が、汚染された水によって引き起こされている。ふるさと熊本に誇りをもつためにも、過去の過ちを正しく理解し、水について正しい知識を学ぶことは必須である。また、恵まれた今の水環境を当たり前のものである子どもたちの現状に対し、世界の水事情を知ること、環境のためにできることを進んでしようという意欲が高まることを期待して、本単元を設定した。

【単元の意義】

本単元では、「水俣に学ぼう」と題し、大きく分けて4つのテーマを設定した。「水の大切さ」「水俣病の歴史や背景」「水俣病への差別」「困難に立ち向かう人々の努力と取組」の4つである。熊本市の公立小学校では、5年生で必ず水俣見学旅行の学習が取り入れられているが、その内容は各学校に委ねられている。水俣学習の中で、「水の大切さ」を出発点に学ぶことで、課題意識や批判意識をもって課題に向き合うことで、総合的な学習の時間としての学習が深められると期待する。

<児童/生徒観>

白山小学校は熊本市のほぼ中心に位置し、古い家が残る一方で、新しいマンションが次々と建てられているため、県外からの転校生も多い。生まれが熊本かどうかに関わらず、低学年のうちから熊本市の水が地下水で賄われていることを知っている児童がほとんどである。しかし、地下水100%であることに誇りを持っているのにも関わらず、蛇口をしっかりと閉めずに水が出っぱなしになってしまっていたり、必要以上に水を勢いよく出して使ったりするなど、水を大切にしようとする意識はあまり高くない。また、水俣病に関しては、過去のものとして捉えている児童が多く、切実感をもってしているとは言い難い。同じ悲劇を繰り返さないためにも、自分たちができることは何か考え、行動することが求められる。

	＜指導観＞ 総合的な学習の時間は、「児童が、自ら学び、自ら考える時間であり、児童の主体的な学習態度を育成する時間である。（小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編）」とされている。そこで、課題を身近に感じ、自分たちの行動が影響を与えるものであるということが実感できるよう、本時の学習である導入の授業において、以下の視点を取り入れる。 ① 普段、当たり前のように使用している水は、実は貴重なものであることを正しく理解できるようにする。→水についての各データ提示 ② 生活に欠かせないはずの水は、世界の人々が平等に手に入れられるわけではないことを正しく理解し、課題意識を持たせる。→ラオス研修時、撮影の写真を提示 ③ 家族（大切な人）と同じように、世界の人々とシェアの精神をもって行動することが大切であることに気付かせる。→SDGs の視点を提示
--	---

【4】展開計画（全 10 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	水の大切さを理解し、自分のできることを考え、行動しようとする意欲を高める。	○ 水について学ぶ。 ○ 水が自由に使えない国の現状について知る。 ○ 安全に使える水は平等にあるわけではないことを知る。 ○ SDGs について知り、自分たちにできることを考える。	
2	水俣病について学び、班で課題を設定する。	○ 水俣病について、本やインターネットで各自調べたことを班で共有する。 ○ 分かったことや興味のあることを共有し、班で課題を設定する。	・小学社会5下（教育出版） ・水俣な人—水俣病を支援した人びとの軌跡（塩田 武史） ・よかたい先生 水俣から世界を見続けた医師（原田正純）
3 6	水俣見学旅行に行き、語り部さんの話や資料館で課題について調べる。	○ 水俣見学旅行の計画を立てる。 ○ 語り部さんの話を聞く。 ○ 資料館で課題について調べたり、質問したりする。 ○ 「みなまたの木」の作者、三枝三七子さんの話を聞く。	水俣資料館 熊本県環境センター（水俣市） 水俣情報センター（水俣市）
7 10	水俣新聞を書き、学んだことを共有する。	○ 水俣見学旅行で分かったことを全体で共有する。 ○ 水俣新聞を個人で書く。	

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	1 貴重な水について学び、世界の水の不平等に気付こう。 ○ 「奇跡の青いケーキ」を分けよう。 ・PW で、「奇跡の青いケーキ」とは何か知る。 ・それぞれの生き物と、どのように「奇跡の青いケーキ」を分けるか、班で話し合い、青い円の画用紙を切り分けて WS に貼る。 ・理由と割合を班ごとに発表する。	・「奇跡の青いケーキ」が貴重なものであることを強調することで、興味関心を高める。 ・「愛する家族」であることを示すことで、自分にとって大切な人を想定できるようにする。	・パワーポイント（PW） ・ワークシート（WS）（各班3枚） ・青い円の画用紙（各班3枚）

	2 水について学ぼう。	めあて：水の大切さについて学ぼう！	
(20 分)	○ 水の分配の実際を知ろう。 ・水がそれぞれの生き物にどのように使われているかデータを見て、偏りがあることを知る。 ・生き物の体の水分量を知り、水は生き物に欠かせないものであることを学ぶ。 ・すぐに使える水は地球上の水の僅か 0.01%であることを知り、水は貴重なものであることを学ぶ。 ○ 世界の水事情を知ろう。 ・安全に使える水が少ない国として、ラオスの生活写真を見る。 ・日本人の支援で小学校に水道を設置したことを紹介し、水の不平等を解決する具体的な働きを紹介する。	・円グラフでデータを示すことで、視覚的に理解できるようにする。 ・事前に、すぐに使える水の割合を予想させることで、事実を知ったときのインパクトを大きくする。 ・教師がラオスにいたときの写真を見せることで、世界の国々を身近に感じられるようにする。 ・SDGs の 17 の目標を提示することで、どう課題に関わっていけるのか考えられるようにする。 ・世界の人々を、愛する家族と同じように大切にしていきたいという気持ちを高める。	・WS
まとめ	3 SDGs の視点で振り返ろう。 ○ SDGs の 17 の目標のうち、自分の印象に残った視点で感想を書こう。 ・SDGs とは何かを知る。 ・SDGs の視点で、本時の感想を個人で書く。		
(10 分)			

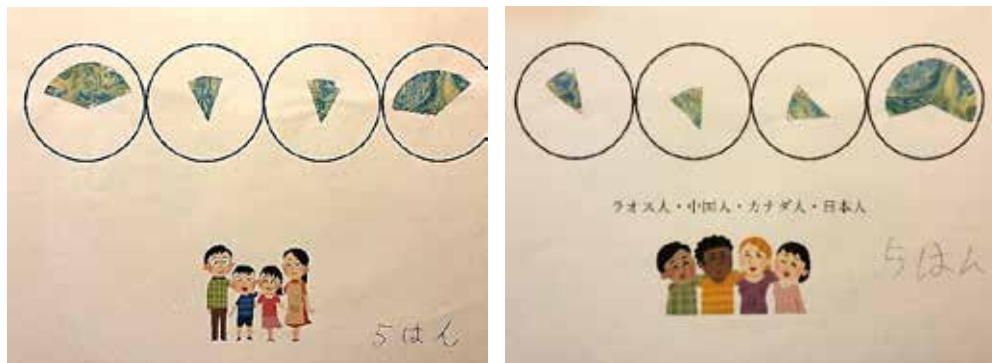
【6】本時の振り返り

ゲストティーチャーとして、「みなまたの木」の作者、絵本作家の三枝三七子さんをお招きした。「みなまたの木」は、日本で初めて公害をテーマにした絵本で、三枝さんは毎年、熊本県内の小学校や中学校で読み語りと、「水俣を知って気付いたこと」についての講話を行っている。本校でも、毎年三枝さんをお招きして、5年生に向けて講演を行っていただいている。

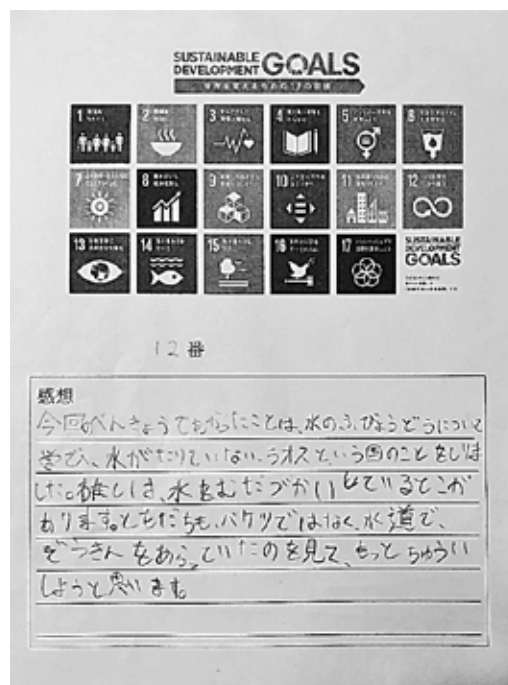
水俣学習では、「語り部さん」と呼ばれる、水俣病の被害者の方々や遺族の方々のお話を伺うことが多い。水俣病の当事者の方々のお話は、子どもたちの心に深く印象に残る一方で、感情的な感想を抱きやすく、公害学習としての側面が薄れがちである。三枝さんは、熊本から遠く離れた土地で生まれ育ち、水俣病を広い視野で捉えて講演をされるため、子どもたちは水俣病の全体像を理解することができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

導入時の、「奇跡の青いケーキ」を分け合う活動では、「愛する家族と」分け合う際は、自分たちのために働いてくれる父親や母親には多めにあげたい、とする一方で、「世界の人々と」分け合う際には、日本人が多くを占め、その他の国が少しずつ平等に分け合うとした班があった。



しかし、最後のまとめの活動の際には、同じ班の児童の中に、以下のような感想があった。



知ることで、他国のことを大切にしようとする気持ちが芽生え、自身ができることを身近なことから見出そうとしている様子が伺える。この他にも、「日本人ラオス人世界中の人たちがびょうどうになればいいと思いました。」「ぼくたち日本人は水をあまり考えずに使っていたのでこんどから大切に使っていきたいです。」「学校に初めての水道水を日本人が作ったことにもびっくりしました。私もこういうボランティアをしたいと思いました(原文)」など、導入の分け合う活動の際とは違う視点で考える姿が多くみられた。

【8】自己評価	
1. 苦勞した点	水の不平等について、データを収集・分析し、本時に必要な形に編集することに大変時間を要した。各国の水事情については、下水道の普及率や使用量から収集することができたが、ラオスについては、国がデータを収集するに至っていないこともあり、正確に最新のデータを得ることが難しかった。 また、人間以外の水の使用量についても正確なデータを得ることが難しく、生き物の割合や生きるのに必要な水の量などから総合的に判断して、子どもたちに提示することとなった。根拠が不明瞭なデータの使用について戸惑いと、データ収集の難しさと限られた時間での分析の厳しさを実感した。
2. 改善点	上記に述べた通り、水の不平等についてのより正確なデータが求められる。本時で使ったデータをたたき台に、正しい数値を子どもたちに示せたらと思う。 また、本時では、導入に多くの時間を費やしてしまった。子どもたちの操作的活動が導入にある一方で、展開では教師の話を聞くだけになってしまっているため、展開時に、もう一つ能動的な活動を取り入れられたらと思う。
3. 成果が出た点	導入時に、「奇跡の青いケーキ」への憧れと興味関心を高めていたことで、「『青いケーキ』を独り占めしたい。」と、子どもらしい発想で意見を述べる子どもが多かった。知っている国々に紛れて、ラオスという聞きなれない国があることで「知らない国は後回し」になってしまうという、自身の差別心に気付く子どももいた。導入とまとめで、子どもたちの意見が大きく変わることが本人にも、教師にも分かりやすいことが、本時の成果と言えるだろう。
4. 備考（授業者による自由記述）	高学年担任として、既に水俣学習を数回経験していたが、学校の年間指導計画に沿って行うだけである程度子どもたちの学びも実り、授業改善への意欲はあまり高くなかった。しかし、本教師海外研修に参加したことで、自身が水について問い直す機会となり、切実感をもって子どもたちへ授業を行うことができた。教師が本気になると、子どもたちも本気になる。スムーズに授業をすることだけが子どもたちの深い学びになるのではなく、子どもたちと一緒に課題を共有して考えたり、批判意識をもったりすることが教師の在り方として大切であることに気付いた。学び続ける教師であるよう、今後も研鑽を怠らないようにしていきたい。

参考資料：

「世界の水使用量ランキング」(最終閲覧日 2019 年 1 月 9 日)：

<https://www.globalnote.jp/post-14371.html>

「水をもっと知ろう」(最終閲覧日 2019 年 1 月 9 日)：

<https://www.aquas5.jp/100/post.php>

「果物情報サイト 果物ナビ」(最終閲覧日 2019 年 1 月 9 日)：

<https://www.kudamononavi.com/eiyou/eiyouhyou/direction=desc/sort=water/>

level=1「水まる分かり情報サイト」(最終閲覧日 2019 年 1 月 9 日)：

<https://water-explanation.com/mametisiki/seibutu-suibun/>

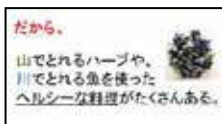
ラオスの学びを通して、グローバルな人材へ

氏名／津嶋 大樹 学校名／宮崎県立延岡高等学校

■ 担当教科／英語 ■ 実践教科／LHR・英語・土曜課外 ■ 時間数／5 時間 ■ 対象学年／第 1 学年
 ■ 人数／42 人（課外については希望者のみ）

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標	
ラオスのことを知りながら、グローバルな視点を持てる人間になる。特に、異文化理解や協働の精神を持てる人間になることに重きを置く。	
【2】単元の 評価規準	評価しない
【3】 単元設定の 理由	教師海外研修としてラオスに行かせていただき、様々なことを感じ、学んだ。ラオスという国自体になじみのない高校生に、まずはラオスのことを知ってもらい、その上で国際的な視点や協力・協働の考え方等を学び、将来の可能性を広げてほしいと思い実践した。 <児童/生徒観> 42 名のクラスで、男女比はほぼ均等である。海外に興味を持っている生徒も多く、ほとんどの生徒が進学希望である。 <教材観> ラオスについての写真や資料のみを使うのではなく、日本文化や他国の文化と比較していくような教材になるように工夫した。また、ICT を積極的に利用し、インターネット上にクイズを公開したり、パワーポイントや動画などの視覚教材を多く用いた。（Quizlet, Powerpoint 使用） ※延岡高校は、全教室の ICT 環境が整備されている <指導観> ただラオスのことを知るというような指導ではなく、生徒たちが自ら様々な実践や話し合いを通して、思考・判断できるようにした。高校生ということを考慮し、「国際支援の在り方や・平等とは何か」というような、答えを出すのが難しい問いについても考える機会を与え、今後志望大学を決定したり、将来の職業を決めていく上での一つの視点になるように工夫した。

【4】展開計画（全 5 時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 限 (LHR)	「ラオスについて知ろう」 ラオスについて知り、日本と比較しながら異文化理解を行う。また、国際支援についても少し考えてみる。	ラオスに関するパワーポイントを用意して、学びを深める。生徒には、日本との違いを意識させ、最後にワークシートにまとめる。 ①ラオスの概要 ②ラオスの文化 ③国際支援の在り方とは ④生徒同士の話し合いの後、ワークシート記入	・パワーポイントによる資料  ・ワークシート



2・3 限 (英・家) 本時	「料理を通して、異文化を知ろう」	本時にて詳細記入	
4・5 限 (課外)	「国際文化・国際支援について考える」 海外や国際関係に興味を持っている生徒に、より深く国際問題について考えさせ、進路の実現や視野を広げるきっかけを作る	①生徒の背中にシールを貼り、言葉を使わずにグループ(4人)を作らせる。一人だけ違うシールを貼ることで、平等とは何かを考えさせる ②スライドショーを用いて、SDGs や今の国際問題の現状について考える。また、SDGs カードを用いて、地元(延岡)の問題等についても考えさせる ③SDGs の諸問題に関する英文を読み、問題を解く。その後各グループで内容等について話し合いをさせる。英文と同じテーマで、個人の意見を問う質問を与え、それをもとにグループでディスカッションを行う。	・パワーポイントによる資料 ・SDGs カード ・資料(英文及びワークシート) 

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点	資料
1 時間目 導入 (5分)	事前学習 前時の振り返り ペアで、ラオスについて学んだ内容を確認しあい、クイズに答えてもらう	ヒントを与える	
展開① (25分)	ラオスの食文化についての説明を聞き、何が食文化に影響を与えるかについて考える ペア→グループで共有 ラオス独自の食材や調味料について学び、日本と比較する	ペアやグループで意見を出し合う機会を多く与える	パワーポイント 
展開② (10分) まとめ (10分)	本日作る料理の紹介及び、作り方の手順の説明を聞く ワークシートに、事前学習のまとめを記入する		パワーポイント 
休み時間	先に、食材仕分けや、みじん切りの作業を始めておく	安全面への配慮	
2 時間目 導入 (5分)	調理実習 家庭科の教員と協力し、授業の趣旨説明および調理手順の確認を行う		ワークシート① (最後に掲載)
展開① (20分)	手順をもとに、各グループで調理を行う グループごとに試食する	安全面への配慮 調理に関する助言	
展開② (15分)	試食しながら、日本料理と比較して味の違い等について、話しあう 各グループごとに片付けを行い、教員のチェックを受ける		ワークシート② (感想記入用紙)
まとめ (10分)	その後、感想の記入		

【授業実践の様子】(授業の様子写真)



【6】本時の振り返り

授業の前の週に、家庭科の先生及び実習担当の先生と一緒に試作品作りを行った。その中で、より効率的な調理手順や材料の代用の方法、より美味しくするためのアレンジやアレルギーを持つ生徒への対応等について準備をした。そのため、実習自体は比較的スムーズに進行した。

事前学習については、ただの調理実習になってしまうことを避けるため、食文化がどのように生まれていくのかを考えたり、日本食の文化と比較を行いながら、他国の良さを受け入れられる人間性を育むような内容にした。

英語科と家庭科の合同授業を行うことによって新たな視点が加わり、生徒に様々な気づきを与えたり、体験させることができた。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

ラオスという国や文化を学び、視野が広がったというような意見が多く出た。また、これを機に、海外に行ってボランティアをしたいという生徒も少数いた。しかし、残念なことに、ラオスには行きたくないという生徒もいた。

[生徒感想文抜粋 ～事前学習～]

ラオスという国を全く知らなかったけど、たくさん知れました。ベトナム戦争でラオスがそんなに被害にあっていたなんて全然知らなかったです。日本の支援の話は、今は支援はあればいいものだと考えていたけど、しどろもその国からすると迷惑なんだろうと知りました。電気代などを、その国が払うなら私には電灯をたてたりするより電気代を支払ったりする形で支援するほうがいいのかなーと思いました。

ラオスの景観をもっと人々に知ってもらう必要があるなと思います。また、ラオスについて知ったことで日本の良みに改めて気づきました。日本では不自由な過ぎるけど、ラオスの人もそれ以上の幸せを知らないから今の暮らしでも幸せなんだと思いました。

ラオスは植民地で、あつちや中えに、独自の文化を、またその国から影響を受け、成り立っていることが分かりました。また、中えにたてにあって、ラオスの食事は物足りないとか、口に合わないとか思っているから、ラオスの人たちに、その文化を大事にしてください。その文化の味や匂いのちがいがあがるから、調べたり、体験して強くなりたいと思います。

【8】自己評価	
1. 苦勞した点	○情報の取捨選択 見せたい写真やデータが多く、精選してもしきれていない部分があった。 ○事前の試行錯誤 アレルギーへの対応や、授業時間内に終わるための準備や効率の良い調理手順など、わからないことが多く、準備に苦勞した。また、インターネット上にあるラオス料理のレシピは日本風にアレンジされたものが多く、本当のラオス料理の味になっているのか不安が残った。現地でレシピ本を購入したり、家庭のレシピを聞いてくるなどの工夫をするべきだった。
2. 改善点	●日程調整 2～3時間使って余裕を持って授業を行い、生徒がもっと考えたり、自分の意見を述べたりそれを共有する時間が持てたらよかった。 ●時間配分 授業時間内に、レポート(感想等)を書き上げる時間を確保することができなかった。片付けの時間が思っていた以上にかかってしまい、終礼及び放課後の時間にレポート書くことになった。もっと時間を意識して計画をし、事前準備を行うことでその問題は解消できたように感じる。
3. 成果が出た点	○知識のインプット 今まで知らなかった世界や文化を知ること、異文化理解や国際支援等の知識をインプットすることができた。今後はこの体験をもとに活動の幅を広げ、さまざまなことについて考える機会を増やし、グローバルな人材になる手助けがしたい。 [生徒感想文抜粋 ～調理実習後～] 私は、ラオスという国はとくににあるのか、とどのような国なのか全く知りませんでした。今回、先生のおかげで知らなかったラオスのことを知ることができました。ラオスの食べ物、料理、風習、衣服のことを今日の料理を通して知れたような気がします。普段、異文化には簡単に触れることができないので、これから海外のことについて考えるときは、まずは料理など身近なものから触れていこうと思います。それから、積極的に異文化に興味を持ち、もっと先生の知識を身につけていこうと思います。

添付資料:

・ワークシート

令和元年度 家庭科・英語科合同企画

「料理を通して、異文化を知ろうプロジェクト」

【カオビヤック（ワオスうどん）】

材料	1 班分
讃岐うどん（冷凍解めん）	3 玉
もやし	1／2 袋
ネギ	適量
鶏がらスープの素	大さじ 2
水	900ml
ライム汁	適量
パクチー（好みで）	適量
調味料（好みで）	
・砂糖	
・塩、こしょう	

《作り方》

①片手鍋に水（900ml）と鶏がらスープの素（大さじ2）を入れて加熱する。

②沸騰したら、鶏ともやしをいれて煮る。

③器に麺とスープを入れ、ねぎを散らす。

④各自でライム汁を搾り、好みで調味料やパクチーをつけ足して完成！



【ラープ（ワオス風ひき肉とミントのサラダ）】

材料	1 班分
豚挽肉	200g
水菜	適量
【ドレッシング】	
・赤玉ねぎ	1／2 個
・ナンプラー	大さじ 1
A・レモン汁	大さじ 1
・砂糖	大さじ 1
フライドオニオン	適量
フライドガーリック	適量

《作り方》

①野菜を切る。

- ・赤玉ねぎ・・・みじん切り
- ・水菜・・・1cm程度に

②みじん切りにした赤玉ねぎを、調味料 A と混ぜあわせ、ドレッシングを作る。

③挽肉を炒める

- ・フライパンに大さじ 2 の水を入れ、火にかける。
- ・水が沸騰したら、豚挽肉を入れ火を消す。（油不要）
- ・肉に火が通ったら火を止め、キッチンペーパーで余分な油や水を拭き取る

④②のフライパンに水菜と③のドレッシング入れて混ぜ合わせる。

⑤④を皿に盛りつけ、フライドオニオンとフライドガーリックをかけた後完成！



参考資料: (URL)

<http://love-super-travel.net/asia/laos/18515/> 2019.11.30 日閲覧

<http://asiwauasia.asia/2016/06/15/%E3%80%90%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9%E3%80%91%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%97/> 2019.11.30 日閲覧

<http://angtong.blog109.fc2.com/blog-entry-273.html> 2019.11.30 日閲覧

“おなじ”も“ちがい”も だいすき！

氏名／中尾 麻美 学校名／壱岐市立瀬戸小学校

■ 担当教科／全教科 ■ 実践教科／道徳・学活 ■ 時間数／5時間 ■ 対象学年／第1学年 ■ 人数／10人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標		
「“おなじ”も“ちがい”も だいすき！」 世界にはいろいろな国があることを知り、日本や外国、その文化について興味をもたせる。また、その違いを認めて尊重したり、世界の課題に対して自分にできることを考えて実行しようとしたりする態度を育てる。		
【2】 単元の評価 規準	(ア)知識・技能	世界にはいろいろな国があることや、自分たちと異なる文化があることに気づくことができる。
	(イ)思考・判断・表現	日本と外国の文化の相違点を見つけ、感じたことを自分の言葉で表現することができる。
	(ウ)主体的学習に取り組む態度	課題と向き合い、自分にできることを考えて取り組もうとすることができる。
【3】 単元設定の理由	【単元設定の理由】 これまでの生活科の学習で、身近な人や町、生き物や自然とのつながりを感じる中で、多くの「だいすき」を見つけることができた。そこで、外国の文化や日本とのつながりを感じながら、多面的に「だいすき」を見つけてほしいと考えて単元を設定した。 【単元の意義】 「同じ・違い」は、国と国だけではなく、人と人の場合も同じである。児童がこれから出会う多くの人を肯定的に受けとめ、認め合う心につながっていくものとする。 ＜児童/生徒観＞ 本学級の児童は、離島で生活しており、島外に出たことがない児童も数名いる。まだ出会ったことがない場所やものへの興味・関心は高く、「知りたい」「やってみたい」と前向きに捉えることができる児童が多い。しかし、他国に関する知識はまだ乏しく、ALTなど他国の人との触れ合いに消極的になってしまう児童もいる。 ＜指導観＞ 指導にあたっては、まず、児童にとって身近な遊びや衣服の違いを体験させることにした。他国の文化を楽しむことで、それらを理解したり尊重したりする態度を養っていく。また、単元をとおして、「違いを認め合う」ことのよさや大切さに気づかせたい。	

【4】展開計画(全 5 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 道徳	世界にはいろいろな国があることを知り、他国の人々に親しみをもつことができる。	1.「ぼくとシャオミン」を読んで、「日本人のぼく」と「中国人のシャオミン」では、好きな食べ物や遊びが違うことに気付く。 2.知っている国の名前を発表し合い、世界にはたくさんの国があることを知る。 3.絵本「せかいのひとびと」を読んで、感想を発表し合う。 4.ほかの国の人の友達ができたらしめてみたいことを発表し合う。	・教科書「あたらしいどうとく1」 ・絵本「せかいのひとびと」評論社
2 学活	ラオスという国について知り、自分たちと異なる文化に興味・関心をもつことができる。 	1.世界地図で、日本や前時に発表した国の場所を見つける。 2.「ラオス」という国名を知り、場所を見つける。 3.世界の簡単な挨拶を知る。 (アメリカ・中国・韓国・フランス・スペイン・ラオス) 4.クイズに答えながら、ラオスの挨拶や食べ物について知り、興味を広げる。	・世界地図 ・教材① (クイズ)
3 学活	自分たちと異なる文化のよさに気付き、積極的に関わっていこうとする心情を育てる。 	1.民族衣装やセパタクローのボールを見て、どのように使うものか考える。 [ものランゲージ] 2.シンを着たりセパタクローのボールで遊んだりして、日本とは違う文化を楽しむ。 3.日本には、どんな伝統文化(衣服・遊び・食べ物・行事など)があるかを考えて発表し合う。	・シン・・・民族衣装(女性用の巻きスカート) ・セパタクローのボール
4 学活 本時	自分たちと異なる文化のよさに気付き、積極的に関わっていこうとする心情を育てる。	1.前時までに出した日本とラオスの文化を比べ、共通点や相違点について考える。 2.写真や動画を見て、他にも同じところや違うところがないか、を見つける。 3.絵合わせカードゲームをする。 4.自分たちで絵合わせカードを作って遊ぶ。	・写真・動画 ・教材② (絵合わせカード)

5 学活	世界が抱えている問題を知り、自分たちにできることを考える。	1.SDGs について知る。 2.日本とラオスの写真を見て、それぞれの課題を考える。 3.自分たちにできることを考える。 4.発表し合い、実践につなげる。	・写真 ・SDGs カード ・教材③ (ワークシート)
【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 			

授業の様子



【6】本時の振り返り

○学習方法及び外部との連携

・体験的な学習課程を意識し、フォトランゲージやものランゲージの時間を設定し、児童が主体的に学べるようにした。

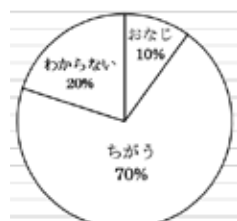
○学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

・夏期休業中の校内研究の中で、職員全体への報告の時間を1時間設定していただいた。スライドを使いながら、研修で学んだことや今後展開したい授業内容について伝えたことで、他の4つの学年でも授業をさせていただくことができた。

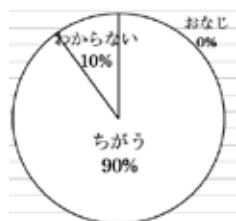
・図書室入口に、SDGsの掲示を行った。各目標と関連した図書を集め、児童の関心につなげている。

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

自分たちと「あたり前」は、他の国も同じ？

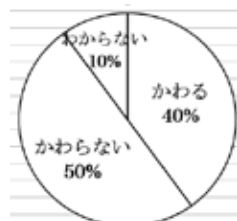


〔授業前〕

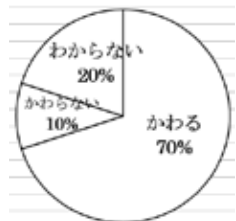


〔授業後〕

自分たちの力で未来が変わる？



〔授業前〕



〔授業後〕

【児童の感想】

- ・シンをきたよ。きれいだったよ。
- ・こんど、けんだまをおしえたいな。
- ・トクトクトクにのったら、きもちよさそう。
- ・がいこくのあそびをおしえてほしい。
- ・がいこくのごはんをたべてみたい。
- ・カオニャオはおいしそうでした。手でたべているのが、ふしぎでした。
- ・ラオスの人と、いつかいつしょにあそびたい。
- ・日本とちがうあいさつやのりものがあるって、おもしろかったです。
- ・子どもは小さいからむりだとおもっていたけど、じぶんたちにできることをしたい。
- ・SDGsを学しゅうしたので、みんなできょう力したい。
- ・ほかのくにのこともしりたい。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	・「ラオス」のことを教えるのではなく、「ラオス」という教材を使って、児童に伝わりやすくするための単元構成が難しかった。伝えたいことが多いが、学習内容や発問を精選し、1時間の中で伝えるべきものを明確にしておかなければならない。 ・偏った情報や教師の主観的なものにならないように、言葉を選びながら進めた。
2. 改善点	・単元の最後で SDGs を紹介したが、初めに紹介して1時間ずつ関連させて考えることでも、世界の課題やつながりをより感じられたかもしれない。 ・「日本とラオス」で比較して考えさせたが、児童の思考をより深めるため、JICA の貸出教材などを利用して、何カ国か比較した授業も構成してみたい。
3. 成果が出た点	・児童は、具体物に触れながら肯定的に外国や異文化と出会い、興味を広げた。 ・フォトランゲージやものランゲージで、児童が主体的に学ぶ時間を確保できた。 ・初めて知る国のことはもちろん、自分たちが住んでいる場所についても見つめ直し、さまざまな視点から「だいすき」や「課題」を見つけられた児童が多かった。 ・SDGs と関連させた授業は低学年には難しいのではないかという不安があったが、取組例を自分たちで考えさせると、「給食を残さず食べる」「水や電気の無駄遣いをしない」「ゴミを拾ってきれいな町にする」など、具体的な意見が出た。
4. 備考（授業者による自由記述）	教師海外研修の中で、ラオスの気候、食事、町並み、生活の様子等を肌で感じる事ができた。写真や動画、現地で購入した商品もあるので、教材は十分だと思う。後は、これらの効果的な使い方を試行錯誤しながら研究を重ねなければならないと感じた。 私が一番心に残っているのは、現地で働く多くの日本人の方が、途上国が直面している課題やその課題解決に向けた取組、誰一人取り残さない世界のために奔走していたことだ。同じように、一人でも多くの方が、自分と世界のつながりや自分が持続可能な社会をつくる一員であることを考える一つのきっかけとなるよう、自分自身の学びを積極的に発信していきたい。

添付資料：教材①（ラオスクイズ）



1. ラオスのこっきはどれ？





① ② ③

2. これは なんでしょう？



①おみせ ②タクシー ③バイク

3. ラオスに ないものは？





①うみ ②くうこう ③バス

4. なにが はいっているでしょう？



①ほうせき ②ごはん ③お金

5. あいさつ「サバイディー」とは？



①いただきます ②ごちそうさま ③こんにちは

6. これは なんでしょう？



①ボール ②ばくだん ③おかし

教材②

① おてらが いっぱいある	④ トックトック がある	⑦ いえの 手つだいはい まい日	① じんじゃが いっぱいある	④ タクシー がある	⑦ いえの 手つだいはい ときどき
② カオニャオ	⑤ うみはないけ れど、大きな 川があるよ	⑧ かみのお金 だけ	② はくまい	⑤ 大きな川はな いけれど、う みがあるよ	⑧ かみのお金と こうか
③ いちばにある しょうひんは、 そのままたくさん ならべてある	⑥ あいさつは りょう手を あわせるよ	⑨ 5つのくにとつ ながっている	③ スーパーにある しょうひんは、 ふくろに入っ ているものが多い	⑥ あいさつはあ たまをさげる よ	⑨ どこのくにと もつながって いない

Sustainable GOALS
持続可能な開発目標



SDGs チャレンジ！！

わたしがチャレンジするのは、

の

【こんなとりくみをするよ！】

ねん

がんばり賞
さん




あなたは、SDGsの 11と14の
目ひょうたっせいにおけて、よく
かんがえて ころどうすることが
できました。
これからも がんばってください。

れいわ2ねん 1月9日
たんにん なかおまみ

【SDGs チャレンジ！】

- ・町にごみをすてない。
- ・ともだちとけんかをしない。
- ・きゅうしよくをのこさない。
- ・水をむだづかいしない。
- ・つかわないでん気をけす。
- ・大きなこえであいさつをする。
- ・学校を休まない。
- ・しょうらいのゆめをきめる。
- ・ものをすぐにすてない。

参考資料:・「新しい道徳1」東京書籍

・ピーター・スピア(1982)「せかいのひとびと」評論社

・「JICA 地球ひろば」<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/index.html>

世界の食料事情を知ろう

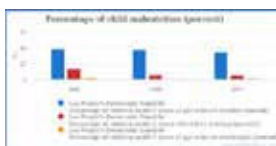
氏名／林 正太郎 学校名／大分市立吉野中学校

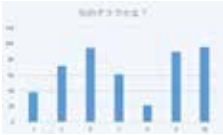
■ 担当教科／英語 ■ 実践教科／英語・道徳・総合的な学習の時間

■ 時間数／6時間 ■ 対象学年／第3学年 ■ 人数／38人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標:	
食料問題から国際理解と国際貢献へ	
【2】 単元の 評価規準	評価規準は設定しない
【3】 単元設定の 理由	＜生徒観＞ 本校は、大分市郊外の中規模の中学校であり、すべての生徒が同じ小学校から入学した仲間同士である。優しく純朴で何事にも丁寧に取り組む生徒が多い。これまで民主的な話し合いを大切にしながら生活してきた生徒たちであり、どんな状況でも互いに協力できる集団である。学校行事でも互いに協力し合い、一人ひとりが積極的に活動する。学校生活や行事を通して助け合うことの大切さを学んでおり、将来、大きく社会に貢献することが期待される集団である。 ＜教材観＞ 今回の授業では食料問題をメインに扱う。食料問題は、人口の膨張する人類にとって喫緊の課題のひとつである。しかし、食べ物に不自由しない生活を送る私たちにとって、この問題が大きな問題として意識されることはまれであり、メディアが報じる食料問題もどこか他人事としてとらえがちである。 「食」の問題は、例えば給食や好物などの身近な話題から切り込めば、着目しやすく扱いやすい題材とも言える。世界で起こっている問題と自分たちの生活に深い関連があることに気づかせる題材と位置づけたい。身近な食べ物の写真や自校の給食の残菜量を示すグラフを用いるなどして、生徒の関心を刺激するような導入にしたい。 ＜指導観＞ 英語科の指導においては、3年間を通して「世界に目を向ける」ことを意識した取組を重ねてきた。1年時には、興味のある国について調査しエッセーを書いた。2年時には、教科書でカンボジアを扱う課のまとめとして「カンボジア調べ」に取り組んだ。3年時には、旅行代理店

	の社員として自分の興味がある国を紹介するなどした。また、英語教室内に、英語科新聞や外国の写真を始めとした掲示物を工夫するなどして、英語学習の雰囲気づくりを心がけた。学級担任としては、「誰も取り残さない学級」を自らの手で築く集団を育てたいと考え、学級活動での「話し合い」を大切にしながら「包摂学級」を念頭に指導した。学級という小さな単位で「包摂」の重要性を実感させ、学校、地域、国、そして国際社会において包摂を目指す人間になってほしいと願う。		
【4】展開計画(全6時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「クイズラオスオネア」にチャレンジしよう 【ラオスの概要や食料問題】	①ワークシート「クイズラオスオネア」による導入 <e-kyozai.com/quiz-laosonaire より> ②ラオスに関するクイズに挑戦する <3次・4次への伏線として食料問題に触れる> 【問題例】 「日本7% (2010)、ラオス44% (2011)」 これは何を示す数字か。 <5 歳未満の子どもの栄養失調による「発育不良」の割合を確認すると共に、背景にある食料問題などに触れる> ③クイズの感想を交流する ④まとめをする(ラオスでも慢性的な食料不足問題を抱えている地域が少なくない)	 ラオスの子どもの栄養失調の状況
2 本時	世界の食料事情を知ろう 【食料分配における不公平性】	本時の展開で詳細記載	・食べ物カード ・ハンガーマップ
3	中村哲医師の取組を知ろう 【問題と闘う人々】 ねらい 中村哲医師がアフガニスタンで用水路を作った経緯から現地の状況を知る	①「武器ではなく命の水を」を視聴する ②感想交流 ③まとめ ・水や食べ物がどれだけ大切か ・水や食料がなくて困っている人々が多く存在する ・私たちの知らないところで、きつい思いをしている人・困っている人がたくさんいる ・その人たちのために行動している人がいる ・問題に対して行動することの気高さ ・起きている問題を知ること、知ろうとする姿勢の大切さ	

4	私たちの身近な問題に注目しよう 【食品ロス問題】 ねらい 「世界の問題が身近な生活の問題へとつながる時間」、 「自分事への昇華が起こる時間」とする	①クイズ形式で日本国内の食品ロスの概要を知る <問題1>これは何のグラフでしょう。 <答え1>吉野中の残菜量を示すグラフ ・グラフや残菜の写真から自分たちの給食の食べ残しについて振り返る <問題2> 年間の廃棄量(食品ロス)はどのくらいでしょう。 <答え2> 国内で 643 万トン、吉野中でも年間 1 トンに達する可能性があります。 <問題3> 内訳で最も割合の大きい廃棄元は何でしょう。 <答え3> 事業系55%(約 350 万 t)、家庭系45%(約 290 万 t)。家庭からの排出量も多い。 ②給食一口メモのコメントについて振り返る 今日は命のお話です。肉豆腐には牛肉を使っています。牛の寿命は20歳くらいと言われていますが、みなさんが今食べている牛肉は2歳から5歳くらいの牛です。食用の牛は、乳用と肉用に分けられます。どちらもオスは2歳くらいで肉にされます。メスは人工的に妊娠・出産を数回繰り返させてから肉にされます。私たちは、私たちが生きていくために、いろいろな動植物の命をいただいています。そのいただいた命をどう扱うか。一度考えてみてください。<2019年11月15日(金)給食一口メモより抜粋> ③「食べ残した給食はどうなる？」(千葉県野田市立関宿小学校の取組)を見る ④世界の問題でもある「食品ロス」の現状と問題点を知る ⑤自分の生活をふり返る、自分にできることを考える、意見や感想を交流する	・グラフ  ・大分市給食一口メモ ・NHK for school <www.nhk.or.jp/school>
5	世界の問題と SDGs を知ろう【問題を見つめる・自分の生き方を考える】 ねらい 食料問題の他にも世界には私たちが無関心ではられない様々な問題があることを知る	①SDGs に関する動画を見る ②SDGs-2 の目標における「食品ロスに関する目標」を確認 ③日本や世界のいろいろな問題について発表・共有する	・SDGs 版 PPAP 動画 (外務省公式動画) ・環境省ウェブサイト

6	ゲスト・ティーチャーの講演 【故郷スリンからの物語】 (スリンでの取組について)	①「英語スゴロク」を使ったアイスブレイク (日本紹介、大分紹介、講師への質問) ②講演「故郷スリンからの物語」 ・干ばつに苦しんだアフガニスタンと治水活動に取り組んだ中村哲医師の話 ・タイの位置やスリンの町の紹介(気候、産業、特産など) ・昆虫食が新しい食料源として浸透しつつあることの紹介 ・スリンの取組が SDGs のどの項目に関連が深いかグループで議論する ③授業の感想を交流する	・英語スゴロク ・WANNOBON KHUAN ARCH 氏より貧困問題へのアプローチについて講演
---	--	--	--

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	○授業者ホームビデオ動画を見る(幼児が食べ物を取り合う内容)	○幼児がなぜ食べ物を取り合うのか考えさせる	・ホームビデオ動画
展開 (30分)	○グループを作り「食べ物カード」をグループのメンバーで自由に分け合う ○自分たちの分け方の基準やルールを発表する(理性、平等性) ○「ハンガーマップ」を見て、青い部分と赤い部分の意味を推測して発表する ○なぜ食料がうまく分配されないのか理由を推測して発表する ○人口増加による食料問題の深刻化について話し合う	○食べ物カードを自由に分け合うように伝える ○分配の平等性を確認する(偏りなく平等に分配していることに注目させる、また動画の幼児と中学生の差に気づかせる) <予想される発言> 力の強さが均等だから、平等の精神がある ○「ハンガーマップ」は栄養不足の人口の割合で色分けされており、世界に十分な食料が生産されているにもかかわらず、平等に食料が行き渡っていない現状を確認させる ○交通網の発達における食料の移動、経済力の格差、生産力、土地の問題などについて考えさせる ○今後の人口増加により食料問題が大きな課題になることや打開策として期待される昆虫食の話題に触れる	・食べ物カード (授業者が撮影した身近な食べ物の写真を正方形にカットした 24 枚のカード) ・ハンガーマップ (国連食料農業機関<FAO>の統計に基づいた世界の飢餓状況を示す世界地図)

まとめ (10分)	○振り返りを書く	○振り返りの中から数名分を読み上げて感想や意見を全体で共有する ○水や食べ物の重要性や分配の不平等性に気づかせ、自らの生活を振り返る機会とさせる ・飢餓の原因が「食料不足」だけとは言えない。 ・食料配分の不公平性によるところが大きい。 ・世界全体で見ると食料の絶対量は足りているが、まんべんなく行き渡っていない。 ・交通インフラの発展により食料が動きやすい状態になった。 ・つまり、原因は人間であり、社会の仕組みであり、不平等性を生む文化にあると言える。 ・爆発的な人口増加によって人口は50年前の25億人から現在では70億人を超えた。 ・国連(世界人口推計)によれば、2050年に世界人口は98億人に達すると予測される。 ・今後の食料確保に関しては課題も多い。食品ロスの解消や昆虫食の普及が期待されている。	
----------------------	-----------------	---	--

【授業実践の様子】(授業の様子写真)

話し合いながら食べ物カードを分ける場面



食べ物カードを分け終わった場面



【6】本時の振り返り

幼い双子が食べ物を取り合う短い動画で授業を始めた。その後、4名のグループを作り、各グループで24枚の食べ物カードを自由に分け合うように指示した。ほとんどのグループが6枚ずつ平等に分配した。それぞれのグループに分配方法を確認しながら、冒頭の動画と比較させ、自分たちが根底に持っている「大人の理性、合理性、平等性」を認識させた。

「ハンガーマップ」で世界の食料分配が平等に行われていない状況を確認すると、「食べ物が全員分あるのに行き渡らないのはおかしい」、「一部の国が食料を占有するのは良くない」などの意見が聞かれた。 冒頭の食べ物カードにあった虫ケーキの話から、食料不足の打開策として期待される昆虫食の話題に移した。昆虫食の広がりには驚きを隠せないようだった。今後の人口増加による食料不足の懸念や国内外に食料問題以外にもいろいろな問題があることを確認して授業を閉じた。	
【7】単元を通した児童生徒の反応/変化	
クイズを楽しみながら笑顔で始まった一連の授業だったが、食べ物が豊富な日本で不自由なく食べられている私たちの日常とは対照的に、干ばつや洪水で十分な食料を得られない人々が多くいることや、そうした状況の改善のために一生懸命に活動する人々の存在を知り、生徒の眼差しは真剣なものになった。自分たちの「当たり前」が実は当たり前ではないことを知り、多くの生徒が衝撃を受けた。	
【8】自己評価	
1. 苦労した点	具体的な数字や事実を丁寧に調査する必要がある、クイズや資料など教材準備に多大な時間と労力を要した。また、授業時間の確保や実施のタイミングに配慮した。
2. 改善点	時間が許せば、食品ロスをはじめ、バイオマス、フェアトレード、昆虫食、食料自給率などの関連テーマごとにグループ分けをして調べ学習を進め、全体発表やポスターセッションによる調査結果の共有や、新聞やウェブサイトによる発信につなぐことができれば、より一層の学習効果が期待できると感じる。
3. 成果が出た点	授業での発言や振り返りから、普段、何気なく消費している水や食べ物の大切さを再認識したという感想が多く見られた。また、「世界の出来事にも興味を持ちたい」といったものや「食べ残しを減らしたい」など、具体的な行動目標を掲げる者も多かった。一連の授業によって子どもらの中に明らかな意識の変化が生じた点は成果と言える。

添付資料：

- ・「クイズラオスオネア」(ワークシート・スライド) / ・「武器ではなく命の水を」(ワークシート)
- ・「日本の問題、世界の問題」(ワークシート) / ・「英語スゴロクセット」(ワークシート・本体・説明書)
- ・「英語科新聞」(2019 年度第 6 号)

参考資料：

- ・「国連食料農業機関」ウェブサイト< <http://www.fao.org/faostat/en/#country/120>>(最終閲覧日 2020/1/20)
- ・「CARE International Japan」ウェブサイト<<https://www.careintjp.org/area/w15.html>>(最終閲覧日 2020/1/20)
- ・環境省ウェブサイト<<http://www.env.go.jp/press/106665.html>>(最終閲覧日 2020/1/20)
- ・NHK for school の動画「食べのこした給食はどうなる？」(千葉県野田市立関宿小学校6年生の取組)
<https://www.nhk.or.jp/sougou/dosurukosuru/?das_id=D0005180376_00000>(最終閲覧日 2020/1/20)
- ・NHK for school の動画「自分たちのまわりの問題を調べてみよう！」
<https://www.nhk.or.jp/sougou/dosurukosuru/?das_id=D0005180375_00000>(最終閲覧日 2020/1/20)
- ・わくわく教材ランド[英語スゴロク、クイズラオスオネアなど]<<https://www.e-kyozai.com/>>(最終閲覧日 2020/1/20)

知りたいな!アジアの国

氏名／原田 恵里 学校名／福岡市立三宅小学校

■ 担当教科／人権教育 ■ 実践教科／総合的な学習の時間・学活

■ 時間数／30 時間 ■ 対象学年／第3 学年 ■ 人数／32 人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標： 国際理解・自己理解

単元目標：

世界のことについて知るとともに、自分自身の在り方について考えることができる。

【2】 単元の評価規準	(ア) 知識・技能	地域の特徴について具体的な事実をとらえ、自分の暮らしとのつながりや関わりに気付く。
	(イ) 思考・判断・表現	調べたことを自分なりにまとめ、発表することができる。 自分の意見や考えをはっきり発表したり、自分と比べながら友達の考えをきいたりできる。 問題解決に必要な資料を集めたり、調べたりすることができる。お互いの考えを交流する中で、話し合いの喜びを知る。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	自分の意見や感想をもつ。 自分や「ひと・こと・もの」など社会との関わりを知る。

【3】
単元設定の理由

【単元設定の理由】
本単元では、アジアの国について興味を持ち、主体的に調べ学習を行い、調べたことを発表する。これらの活動を行うことで、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する力を身に付けさせることをねらいとしている。また、3年生という考え方が柔軟な時期に、自分の国と異なる文化や生活について知り、その中から共通点を見つけたり、それぞれの文化の良さなどに気付くことで、多様性を認める心の素地も養いたいと考える。

【単元の意義】

グローバル化が進む中で横断的・総合的な課題として国際理解に関する議題を扱い、探究的な活動を通して取り組んでいくことは、これからの多様な世界を生き、持続可能な社会の創り手となる児童が国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うために意義深いと考える。

<児童/生徒観>

本学級の児童は、これまで社会科の学習で福岡市について学習してきている。しかし、世界の国々について学習するのは今回が初めてである。外国語活動において、他国の言語や、町の様子などをビデオで見るなどの経験はある。また、世界の国々については、ワールドカップなどで数か国の名前などを知っている児童もいる。学級・学年にルーマニアやブラジルにルーツをもつ児童もいる。また、国語「三年とうげ」の学習で韓国の文化に触れたり、諸外国の民話を読んだりもしている。外国に対する興味は強く、外国についての話を聞くとときなどは、目を輝かせて話を聞いている児童も多い。

	<指導観> 本単元においては、世界の国々に興味をもってもらうために、世界の家族の写真をみせ、「フォトランゲージ」を行い、日本との共通点や相違点に気付かせ、日本以外の国に興味をもたせる。次に、福岡市は「アジアの窓口」と言われることもあることからアジアの国に焦点を絞り、実際にアジアの国々の講師の先生に来ていただき、生活や文化について学んだり、触れたりする。その際に、「フォトランゲージ」や「ものランゲージ」を行うことで、児童自身が考えたり、友達の多様な考えに触れたりすることができるようにする。以上のような学習を踏まえ、自分が興味を持った国の衣食住・あそび等について調べ学習を行う。最後に調べたことについて保護者に対して発表を行う。
--	---

【4】展開計画(5 時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	「世界って広い！面白い！」 世界には日本のほかにも様々な国があることを知り、文化や生活にも違いがあることを知る。	・世界地図で日本がどこか考えて色を塗る。 ・フォトランゲージ ・ランキング	・世界地図の白地図 ・地球家族 ・地球の食卓
2	「知りたいな！アジアの国」 自分たちが住む日本の近くのアジアの国々について知る。	・それぞれの国の方から話を聞いたり、文化を体験したりする。	
3	「ラオスってどんな国？」 ラオスの国について知る。ラオスの課題などについて知る。	・ラオスの文化を体験する。 ・フォトランゲージ ・ものランゲージ ・ラオスごろく	・ラオスの写真 (研修にて撮影した写真) ・ラオスのもの
4	「知りたいな！アジアの国」 自分が興味を持ったアジアの国について調べ学習をする。	・自分が興味をもった国の衣食住・遊びなどについて調べ学習を行う。 ・調べたことについてクラスの友達・保護者に向けて発表する。	・世界の国についての本(学校の図書館のもの)

【5】本時の展開(5 時間目)

ねらい: 自分の意見を言ったり友達の意見を聞いたり、友達と交流しながら、ラオスの文化について知る。

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (3分)	1. これまでに学んできた世界の国々の生活や文化について振り返る。 2. 本時ではアジアの国々の中でもラオスについて学んでいくことを知り、めあてを確認する。 めあて ラオスの生活や文化について知ろう。	○これまで学習したことの写真などを準備しておき、児童が思い出せるようにしておく。	

展開 (27 分)	3. ラオスの生活に欠かせないものなどを用いて、ラオスごろくを行う。 1)ラオスごろくの仕方、グループ活動のルールを確認する。 【ラオスごろくの仕方】 ・SDGsサイコロを順番にふる。 ・出たサイコロの番号のブースに行き、そこにあるラオスのものは何に使うのか、どのように使うのかについて、考え、それぞれの考えたことなどを発言し、試してみる。一人必ず1回は発言し、その友達の意見について、自分の気持ちに合わせて、リアクションシールを友達のワークシートに貼る。 【グループ活動のルール】 ・否定しない ・言い残さない ・さえぎらない ・全員発言する 2)グループでラオスごろくを行う。 4. ラオスごろくで出てきたものについて、どのような意見がでたのか全体で交流する。	○項目を 18 個つくり、6 個ずつ3つのコースに分ける。18 個は SDGsの目標(18 個目はラオスが独自で決めたもの)、ラオスの県の数でもあるので、それぞれの班が 6 ずつ活動すれば SDGs18 個の目標と、ラオス 1 周ができるようにする。 ○モノランゲージやフォトランゲージは正解はなく、自由な発想で行っていいことを確認し、子どもたちが発言しやすい環境をつくる。 ○ラオスについて学んだこととグループでの活動についての振り返りをさせる。 ○グループでも振り返りの共有をすることで、自分がグループの友達の役に立ったことが感じられるようにする。	・SDGsサイコロ ・ラオスの地図 ・ラオスのもの (ティップカオ・シン・楽器・うちわ・木製枕・竹ストロー・セパタクローのボール・COPE の象のぬいぐるみ)
まとめ (15 分)	5. 本時の振り返りをする。 ・ラオスについて学んで思ったこと・感じたこと ・グループ活動の振り返り 6. 振り返りをグループ・全体で交流する		

【6】本時の振り返り ＜学習方法及び外部との連携＞ 公益財団法人福岡県国際協力センターの国際理解教育推進事業の一環で、アジアの国々の方にゲストティーチャーとして来ていただき、自国の生活や文化などについて話をしてもらった。衣装や楽器など実物を持ってきて、子どもたちに見せたり、着せたり、演奏させたりしてくれたため、子どもたちも関心を持っており、前のめりになって話を聞く姿が見られた。実物を見たり、外国の方と関わったりすることで子どもたちの興味が深まっていた。また、その後行う調べ学習への意欲も高まっていた。
--

【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

ラオスの国とかが知られてよかった
です。日本と同じところもあるし、ちがう
ところもある。もっと詳しくラオスのこと
をしりたいです。

ラオスの物は、はじめてみたら付を どうやってするの
か全くわからなかったけど、はじめてしておも
しろいのがたくさんありました。日本とは
ちがう物がたくさんあるから、おもしろいと思
いました

【友達の見聞を聞いて感じたこと・思ったこと】

人によって、何に見えるかちがって、おもしろい考えがたくさ
んありました。自分がおもわなかったことも、友だちがかんじていた
こともあったら、それもあるねと気づきました。1人ではわか
らないことがいっぱいあったのに、友だちのおかげでした。

【8】自己評価

1. 苦労した点	児童は、初めて触れるラオスのものにとっても興味をもっており、楽しみながら活動に取り組んでいた。しかし、グループ(4人)でフォトランゲージに取り組み、一人一人が発言し、リアクションシールを使いながら交流したため、6つある項目のうち3つ程度しか回れていないグループが多かった。たくさんの友達の意見を聞くことも楽しいが、ラオスのものに触れる時間ももっと取ることができれば良かった。また、同じブースに同時に複数グループ集まり、待ち時間が発生していることがあった。
2. 改善点	1時間(45分)の授業で行うには活動量が多かったため、2時間で行うと良かった。また、4人ではなく、2~3人の小グループにしても良かった。待ち時間など無駄な時間が発生しないように、より多くのブースをつくとよいと考える。
3. 成果が出た点	・児童が実際に、ラオスのものに触れることでラオスや他の国について興味を持つことができたことである。 ・児童が多様な考えに触れることができた。ラオスのもので日本と異なるものに触れたり、ものランゲージで、自分と異なる考えを持った友達の意見を聞いたりすることで、様々な生活や考え方があるということを知ることができたのではないかと考える。

4. 備考（授業者による自由記述）	教師海外研修に参加することで、自分自身の視野が広がり、物事に対する見方考え方が変わってきた。人としての幅を広げることができたように感じる。自分が実際に目で見て、肌で感じてきたことを子どもたちに伝えることで、子どもたちにリアルな声が届けられ、遠く感じる外国のことを少し身近に感じることはできたのではないと思う。授業の最後に児童の一人が「よし。クラスみんなでラオスに行こう。」と言っており、その言葉がとても嬉しかった。新しいもの・本物に触れるとき、子どもたちは本当に生き生きとして楽しそうに学習している。ラオスのことに限らず、様々な事柄において、子どもたちに新しいもの・本物に出会わせることは子どもの豊かな人間性を育むうえでとても大切だと今回の授業を通して改めて感じた。これからの日本・世界を担う子どもたちは、無限の可能性をもっており、どんな事柄に興味をもつかわからない。子どものうちから、様々な事柄に触れさせ、たくさんの種をまいておくことがとても大切だと思った。そのためにも、教師である私自身も常に様々なことに関心を持ち、学び続け、人として成長していきたいと強く思った。 また、SDGsについて子どもたちに話し、SDGsに絡めて学校生活におけるめあてを考えさせた。子どもたちは、SDGsがどんなものであるのか等、明確に理解できたとは言いきれないが、配布したプリントに載っているSDGsのマークに気づいてクラスみんなに教えていたり、ニュースでやっていたと報告に来たり、お家の人に説明していたりと興味関心を持ち続けてくれた。子どもだからと教えないでいることはとてももったいないことだと感じた。手を洗う際の水の出し方など、子ども自身の行動が変わったり、子どもの話を聞いてお家の人の行動が変わっていったりと、子どものもつ影響力のすごさも感じた。
-------------------	---

参考文献：

- ・マテリアルワールドプロジェクト著 『地球家族』 1994年 TOTO 出版
- ・ピーター・メンツェル＋フェイス・ダルージオ著 『地球の食卓 世界24か国の家族のごはん』 2006年 TOTO 出版
- ・吉田忠正著 『体験取材！世界の国ぐに(13)モンゴル』 2007年 ポプラ社
- ・アナベル・キンダスリー著 『世界のおまつり』 1998年 ほるぷ出版
- ・こどもくらぶ編著 『世界の市場 中国・台湾 アジア編3』 2007年 アリス館
- ・吉富志津代監修 『同級生は外国人！？』 2018年 汐文社
- ・小長谷有紀編著 『くらべてみよう！日本と世界のくらしと遊び』 2004年 講談社
- ・井田仁康監修 『世界の地理2』 2010年 学研教育

参考資料：

- ・JICA 地球広場（最終閲覧日 2020年3月7日）
<https://www.jica.go.jp/hiroba/teacher/material/sdgs.html>
- ・ラオスの地方行政区画-Wikipedia（最終閲覧日 2020年3月7日）
<https://www.bing.com/search?q=%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9%E3%80%80%E7%9C%8C&q=n&form=QBRE&sp=-1&pq=%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B9+%E7%9C%8C&sc=5-5&sk=&cvid=65A0DA50940D4DCFA7A37D4FBC43EC85>

世界はバランスでできている

氏名／前濱 めぐみ 学校名／鹿児島市立皇徳寺小学校

■担当教科／小学校全科 ■実践教科／国語・家庭・社会・学級活動

■時間数／5時間 ■対象学年／第6学年 ■人数／29人

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標：		
・ラオスを通して世界の課題を知り、世界の国々の一員として、何ができるかを考えることができる。		
【2】 単元の 評価 基準	(ア)知識・技能	資料から、必要な情報を読み取り、比較したり、推測したりまとめたりすることができる。 世界には、日本と類似点や相違点する文化があることを理解する。
	(イ)思考・判断・表現	世界はバランスでできている、それぞれの国は支えられて生きていることに気付くことができる。 幸せの捉え方は、それぞれであり、物の豊さが人の豊かさにつながるとは言えないことに気付くことができる。
	(ウ)主体的に学習に取り組む態度	外国の文化に興味・関心を持つことができる。 他文化に対する理解を深め、日本の文化を大切にしていこうとする態度を育てる。
【3】 単元設定の 理由	国際社会の中で主体的に生きるには、様々な国の文化や違いを知るところから始まる。類似や相違を見つけ、類似点で親しみを感じたり、相違点で認め合ったりすることで、国際社会で生き抜いていくための素地を作っていきたい。異なる文化を受け入れることは難しいことではあるが、事実を知るところから始めていきたいと考え、本単元では、自己理解、他者理解と国際貢献をテーマに単元を設定した。 <児童観> 本校の児童は、日常生活で外国人と接する機会が少なく、国を超えた人種や文化の違いに触れることは少ない。また、身近な友達との関わり方や、相違点に対して認められないこともある。体験も少ないことから、相手の気持ちや立場を想像することが難しいことも多い。 <教材観> 他国の文化を知るという目的から、身近な担任が体験したことを見聞きすることで、親しみが湧くこともねらい、ラオスの物や写真を中心に教材を扱った。また、各教科との関連も図り、開発教育協会の資料も活用し、主体的に活動できるようにした。 <指導観> 世界の国の人々と身近な人(友達)との関係づくりは、根本的に同じであり、互いの違いを認め合うことや、興味を持って知ることが大切であることに気付かせたい。また自国について、物質的な裕福さだけでなく、世界と日本との関係についても知ることで、世界の中の日本として捉えさせていきたい。	

【4】展開計画(全5時間)			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	【文化】異文化(ラオス)を体験 ☆ラオスの文化を感じ、日本とラオスの似ているところを探すことにより、異文化に親しみをもつ。 	①アジアの仲間【ラオス】について知る。モノ・ランゲージ ②日本と似ているところ、異なるところを探す。 ③ふりかえり  	○ラオスの国旗 ○世界地図 ○お金 ○シン (女性用の巻きスカート) ○笛 ○教科書 ○セパタクロー (竹で編み込まれボール) ○ティップカオ (蒸したお米を入れる物)
2	【文化・教育】日本の文化との比較 ☆日本の文化と他国の異文化に親しみをもち比較する。 	①100 人村「教育」体験 ②モン族の刺繍を見る。暮らしや歴史を知る。 ③日本の伝統的な行事をもとに、後世に残したいものをあげ、皇小6-2版を作る。 (国語:季節の言葉関連)④ふり回り 	○モン族刺繍 ※モン族・・・ラオスの民族のうちの一つの民族
3	【食】世界からやってくる私たちの食べ物 ☆ラオスを通して日本の食料自給率・世界の食料自給率について知り、日本も他の国に支えられていることに気付く。	①100人村(地球温暖化の現状を知る) ②1食分の夕食を例にして、CO₂排出量と、日本の食料自給率の関係について知る。 ③ラオスの食事情を知る。(昆虫食含む)写真・動画 ④ふりかえり	○ラオスの市場の写真
4	【環境】命を守る水 ☆ラオスの水問題と日本の水問題を知り、水の大切さに気付く。	①ペットボトル3ℓで一日過ごせるか用途を考える。 ②ラオスの水事情を知る。 ③日本で使われている水の使用量を知る。(バーチャルウォーター)※仮想水 ④ふりかえり	○写真 ○テキスト ○1.5ℓペットボトル(2本)
5	【平和】私にできる平和づくり ☆ラオスが抱えている課題は、他人事ではなく、身近なところにもあることに気付き、自分にできる平和づくりを考える。	詳細は【5】本時の展開にて	○スプーン ○ぬいぐるみ ○SDGs カード

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	①ぬいぐるみやスプーンでモノ・ランゲージをして、何を表現しているのか 何で作られているのかを考える。 ②スライドでラオスの現状(不発弾)について知る。	○ラオスの土産を直接手に取り、それが何 でできているのか主体的に知ろうとする。	○スプーン ○ぬいぐるみ
展開 (30分)	③戦争の爪痕(鹿児島で見つかった不発弾について)について知る	○戦争の爪痕は、他人事でないことを捉え させるために、県内で起こった記事を紹介 する。	
	 		
	☆ 今日の学習をふり返って、感じたことや考えたことを書こう。 不発弾の処理完了 不発弾の処理完了 不発弾の処理完了	☆ 今日の学習をふり返って、感じたことや考えたことを書こう。 ラオスの人たちは、毎日不安な日々を過ごしているのは本当のこと。写真を見ると、子どもたちがおどろきと恐怖の表情で、平和に過ごしているように感じていいなと思った。	
まとめ (10分)	④ふりかえり これまでの学習を振り返り、自分にできることを考える。	○本時までの学習を振り返りながら、身近な ことで自分にできることはないか考えさせる。	
	☆ これまでの学習(文化、教育、食、水、平和)を通して、考えたことや気付いたことなどを書こう。 ラオスと日本では文化などがちがった。だけど、それぞれ、その国の文化を守り、生きていく。ラオスの人が笑顔でくらししているのは、みんなが力を合わせているからだと思う。	☆ これまでの学習(文化、教育、食、水、平和)を通して、考えたことや気付いたことなどを書こう。 自分から知らなかった国々の文化、食、水のことなどを知りました。自分たちが普段使っている水など、あらためて知ることができて、水があまり使えない国があるということを知れた。水の大切さを改めて、今までは以上に水が使えることに感謝したい。	

【授業実践の様子】(授業の様子写真)



【6】本時の振り返り

全5時間を通して、世界の国々に興味を持ち、日本とラオスを比較したり、良さを見つけたりすることで、文化の違いに親しんだり、世界の現状を考えたりすることができた。特に平和については、他人事にならないよう、戦争の爪痕として、今も残っている郷土の現状を伝え、平和な世界について考えさせることができた。1時間ごとにテーマを持って実践したが、本時では、単元の振り返りも含め、日本は世界とのバランスで成り立っていることや、世界の国々では、様々な環境の中でも、幸せに暮らし、そして懸命に生きている人々がいることに気付くことと、これからの未来を生きていく自分たちに、何かできることがないか考える機会となった。

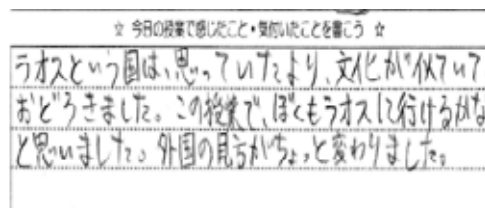
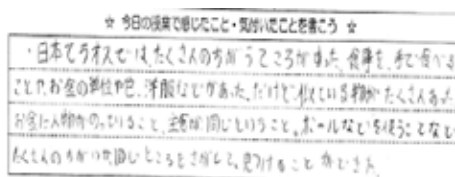
【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

(ア)知識・技能

- 資料から、必要な情報を読み取り、比較したり、推測したりすることができる。
- ・ モノ・ランゲージでは、実際に触れたり、話し合ったりすることで、たくさんの気づきが出てきた。想像が膨らみ、予想外の意見もでてきた。



- 世界には、日本と類似や相違する文化があることを理解する。
- ・ 日本との類似・相違だけで終わらず親しみがわくように、それにまつわるエピソードを加えて説明することで、より楽しんで文化に触れることができた。



(イ)思考・判断・表現等

- 世界はバランスでできており、それぞれの国は支えられて生きていることに気付くことができる。
 - 幸せの捉え方は、それぞれであり、物の豊かさが人の豊かさにつながるとは言えないことに気付くことができる。
- ・ 掲示された写真を見て、気付いたことをグループ活動で出し合ったり、ワークシートに記入したりすることで、たくさんの気づきを全体で共有できた。

☆ 今日の授業で感じたこと・気づいたこと・考えたことなどを書こう。

水に水を使っていないから、牛に牛乳を飲め流す
 はいいよという考え方は、日本人だからできることだから
 京都使えない人の気持ちになってみる。学校の水道水は
 水、伊藤さん、お前。

☆ 今日の授業で感じたこと・気づいたこと・考えたことなどを書こう。

できるだけ水を使わず、節水し、飲む水は飲む分だけ注いで、無駄にしない。水の問題のことをもっと深く知るとが大切だと思ふ。

☆ 今日の授業で感じたこと・気づいたこと・考えたことなどを書こう。

今更に、p.p.をひねね水はいくらでも出てきてい
 ましたが、世界には安全な水を保てない人がある事を
 知った。

水を出しは"なしにしない。むだづかいをしない。

☆ 今日の授業で感じたこと・気づいたこと・考えたことなどを書こう。

日本は、比較的、水が多く使われている国だが、
テオスなど水の使われる割合が小さい国があるんだ
ということを知った。日本だけでなく、世界の水問題
の解決のために、節水を心がけたいと思った。

(ウ)主体的に学習に取り組む態度

- 外国の文化に興味・関心を持つことができる。
- 他文化に対する理解を深め、日本の文化を大切にしていこうとする態度を育てる。
- ・ 類似や相違を比較することで、ラオスや他の国に興味を持つ児童が増えた。

五時開會に、学生、ラオスに
来て、日本と同じ照明などに照
らすと人がかりであったので、ラオ
スにも使っているものがあるんだな
と思いました。他には、事故でけが
したスポーツのやうな目録、その
ほか、おとこ入るのしき、おとこ
におこるき、おとこ、そのまな、
聞いて、私は、ラオスに行きたいやうな
感じでした。世界の國々の文化な
をもっと、と知りたいです。

[illegible]

【単元全体を通しての児童の感想】(第5時)

- ラオスのことを知って、ラオスの文化や環境のことがよく分かった。日本だけでなく、他の国のことも考えて、世界が平和になればいいなと思った。
- みんなそれぞれ違うこともあるけど、相手のことを理解すると、平和な世界になると思う。
- これまでの学習で、他の国の問題を少しでもなくすためには、日本の努力や協力が必要だと思いました。ぼくたちも、できることをしていきたいです。
- これから、限りある資源を大切に、平和でみんなが安心できる世界にしていきたいです。
- 世界では、様々な問題があって、危険な目にあっている人もいることを知り、日本は恵まれていると思いました。これからは、日本がたくさんの国を助けていかないといけないなと思いました。
- 最初は、ラオスの人々をかわいそうだなと思っていましたが、勉強していくにつれて、ラオスの人は、とても生活を楽しんでいるように見えました。これが、文化なのかなと思いました。

【8】自己評価	
1. 苦労した点	私が体験したことは、事実の一部であり、それがすべてではないことを意識して授業を行うことに注意した。ラオスという国を、担任が語ることで身近に感じられるからこそ、偏見を持たせないように言葉や教材を選ぶようにした。
2. 改善点	単元の系統性を考えて指導計画を立てたが、もう少し体験活動を入れて考えさせたり、気付かせたりしてもよかった。 自分にできることを考えることはできたが、それをどう実践するか、もう一歩踏み込んで考えさせる場が必要である。
3. 成果が出た点	ラオスの文化を知ることで、他の国々にも興味を持つ子供が増えた。 日本と世界はつながりがあることや、バランスで成り立っていることに気付いた点は、大きな成果であるとする。 3学期の社会科「世界の中の日本」の学習を楽しみにしている児童も出てきた。「相手(国)を知りたい」という興味関心も高まり、視野を広げることもできた。

添付資料：

添付資料：【資料1】(第2時 文化・教育)



【資料2】(第2時 文化・教育)ラオスのモン族の文化と日本の残したい文化の比較



2019年度(令和元年度)

**～JICA 教師海外研修～
(九州・沖縄)**

【発行】

2020年3月

【発行者】

独立行政法人国際協力機構 沖縄センター(JICA沖縄)

〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1

TEL:098-876-6000(代表)

FAX:098-876-6014

【本事業・本報告書等受託者】

特定非営利活動法人 沖縄NGOセンター

〒901-2211 沖縄県宜野湾市宜野湾3丁目23-52

TEL:098-892-4758

FAX:098-892-9908

